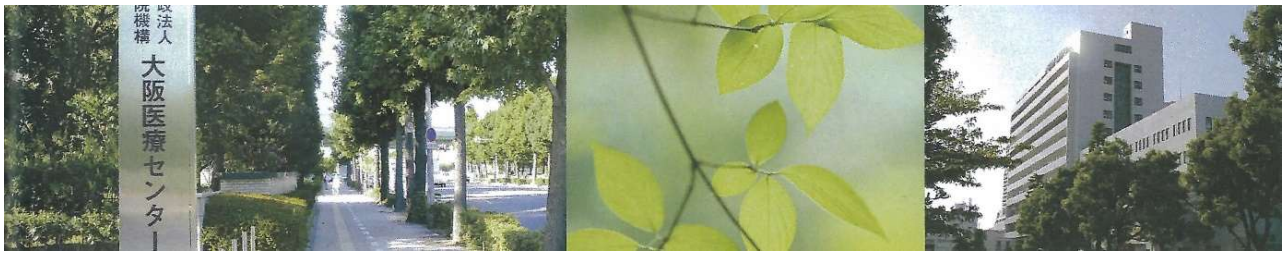
専門医制度 内科領域

国立病院機構

大阪医療センター
内科専門研修プログラム



文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準【内科領域】』『内科専門研修カリキュラム』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術･技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトを参照ください。
また日本内科学会専攻医登録評価システムは、J-OSLER（Japan-Online system for Standardized Log of Evaluation and Registration of specialty training System）と略して表記します。

目次

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム

1. 理念・使命・特性・専門研修後の成果 …… 1
2. 募集専攻医数 …… 6
3. 専門知識・専門技能とは …… 7
4. 専門知識・専門技能の習得計画 …… 7
5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス …… 19
6. リサーチマインドの養成計画 …… 19
7. 学術活動に関する研修計画 …… 19
8. コア・コンピテンシーの研修計画 …… 20
9. 地域医療における施設群の役割 …… 20
10. 地域医療に関する研修計画 …… 21
11. 内科専攻医研修 …… 22
12. 専攻医の評価時期と方法 …… 23
13. 内科専門研修プログラム管理委員会の運営計画 …… 25
14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画 …… 26
15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理） …… 26
16. 内科専門研修プログラムの改善方法 …… 26
17. 専攻医の募集および採用の方法 …… 27
18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件 …… 28
19. 専門研修施設群の構成要件 …… 28
20. 専門研修施設（連携施設）の選択 …… 31
21. 専門研修施設群の地理的範囲 …… 31

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム施設群　各病院の概要 …… 32

1) 専門研修基幹施設　国立病院機構大阪医療センター …… 33
2) 専門研修連携施設　大阪けいさつ病院…… 34
多根総合病院 …… 36
森之宮病院 …… 37
大阪大学医学部附属病院 …… 39
国立病院機構大阪南医療センター …… 41
国立病院機構大阪刀根山医療センター …… 42
国立病院機構近畿中央呼吸器センター …… 44
大手前病院 …… 45
JCHO 大阪病院 …… 46
りんくう総合医療センター …… 48
市立池田病院 …… 50
箕面市立病院 …… 52
大阪急性期・総合医療センター …… 53
市立東大阪医療センター …… 54

市立伊丹病院 …… 56
関西労災病院 …… 58
兵庫県立西宮総合医療センター…… 60
川崎病院 …… 61
香川大学医学部付属病院 …… 63
市立豊中病院 …… 65
市立吹田市民病院 ……66
日本生命病院 ……68
兵庫医科大学病院……70
川西市立総合医療センター……71
大阪労災病院……73
国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム 管理委員会 …… 76
別表：各年次到達目標 …… 78

1. 理念・使命・特性・専門研修後の成果

① 理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは、大阪市東部地区の中心的な急性期病院である国立病院機構大阪医療センターを基幹施設として、近隣の連携施設とともに内科専門研修を行い、地域医療に根ざした総合内科および救急診療を実践できる能力を身につけられるよう勘案し、2018 年度から内科の専門研修を開始しました。地域医療を取り巻く環境の変化、新興再興感染症への対応などを鑑み、2021 年度の内科専門研修からは連携施設を拡充し、時代に即した内科専門研修を目指しています。そして内科専門医としての基礎的訓練を積みながら、内科領域 Subspecialty 専門医へのステップアップを念頭に Subspecialty 専門研修も組み入れています。病院総合内科医、いわゆる Generality を追求したい医師には 3 年間多くの診療科を幅広く研修してもらいます。

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラムの内科専門研修施設群で基幹施設 1 年間以上と連携施設 1 年間以上の計 3 年間に、Generality および Subspecialty ともに豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、「内科専門研修カリキュラム」に定められた内科領域全般にわたる研修を行い、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を修得してもらいます。

本プログラムでめざす内科領域全般の診療能力は「知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接することはもちろん、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を身につけ、可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する能力」を意味します。これは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。

内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次経験していくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術を習得することができます。また、患者の抱える多様な背景に配慮する経験が加わることによって、人間としての成長もとげるでしょう。これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。

3) 内科専攻医は研修の身ではありますが、同時に国立病院機構大阪医療センターの一職員として自覚を持っていただきますので、下記に示す当院の理念も理解して行動規範としてください。

1. 医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
2. 透明性と質の高い医療を、分け隔てなく情熱をもって提供します。
3. 医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
4. 常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院経営に寄与します。

※ 補足しますと、3.の医療人の育成は、専攻医といえども後輩の初期研修医や医学生の模範になっていただきたいこと、4.の健全な病院経営は、無駄をなくし医療経済への理解も深めてもらうことを意味しています。

② 使命【整備基準 2】

1) 日本は今や超高齢化社会を迎えています。そして高齢者のかかえる疾患は内科領域でさえ多岐にわたります。日本を支える内科専門医の使命は、(1) 高い倫理観と人間愛を持ち、(2) up-to-date な標準的医療を熟知・実践し、(3) 患者が安心して安全な医療を受けられるよう心がけ、(4) 崇高なプロ意識を持ちながら奢ることなく患者中心の医療を提供し、(5) 臓器別専門性に著しく偏ることのない全人的な内科診療を提供すると同時に、(6) チーム医療を円滑に運営することにあります。このような内科専門医を育成することが本プログラムの研修目的です。

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、常に最新のガイドラインを取り入れ自己研鑽を続け、EBM の実践に努める習慣を身につける素地を養います。新しい技術を修得し、標準治療をより安全に提供するだけでなく、予防医学の観点からも疾病の早期発見・早期治療に努める診療姿勢を学んでもらいます。このような疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて、地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。また、自らの診療能力をより高めることを通じて、コメディカルを含めた診療チームの水準をも高めることでも、地域住民、ひいては日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。実際の大規模臨床試験や自主臨床研究を身近に感じることで、研究の企画・立案にいたるプロセスや統計解析の知識、研究に必要な倫理観などを育成します。

③ 特性

1) 本プログラムは、大阪市東部地区の中心的な急性期病院である国立病院機構大阪医療センターを基幹施設として、近隣の連携施設ばかりでなく非シーリング地域の連携施設とも協力して（P. 4、図 1）内科専門研修を行い、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練します。研修期間は基幹施設 1 年間以上、連携施設 1 年間以上の計 3 年間です。

2) 国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムの専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として入院から退院まで〈初診・入院～退院・通院〉可能な範囲で経時的に診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

3) 基幹施設である国立病院機構大阪医療センターは、大阪市東部地区の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もできます。

4) 本プログラム専攻医 2 年修了時で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、56 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（Japan-Online

system for Standardized Log of Evaluation and Registration of specialty training system、以下 J-OSLER）に登録することができます。そして専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。

5) 国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムの内科専門研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 2 年目の 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。

6) 基幹施設である国立病院機構大阪医療センターで 1 年間以上と連携施設での 1 年間以上、計 3 年間の研修修了時には、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、ほぼすべての疾患群で、180 症例近くを経験し、J-OSLER に登録できます。

図 1．国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムを構成する病院施設群



1 国立病院機構 大阪医療センター　**2** 大阪けいさつ病院　**3** 多根総合病院　**4** 森之宮病院
5 大阪大学医学部附属病院　**6** 国立病院機構 大阪南医療センター　**7** 国立病院機構 大阪刀根山医療センター
8 国立病院機構近畿中央呼吸器センター　**9** 大手前病院　**10** JCHO 大阪病院　**11** りんくう総合医療センター
12 市立池田病院　**13** 箕面市立病院　**14** 大阪急性期・総合医療センター　**15** 市立東大阪医療センター
16 市立伊丹病院　**17** 関西労災病院　**18** 兵庫県立西宮総合医療センター　**19** 川崎病院
20 香川大学医学部附属病院　**21** 市立豊中病院　**22** 市立吹田市民病院　**23** 日本生命病院
24 兵庫医科大学病院　**25** 川西市立総合医療センター　**26** 大阪労災病院

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムは、図 1 に示した内科専門研修施設群で構成されます。基幹施設は国立病院機構大阪医療センターです。当院は大阪メトロ谷町四丁目駅に直結し、交通アクセスの良い立地です。

連携施設は地域性で主に 5 つに分かれます。

(1) 大阪市内・近辺病院群：新専門医制度が始まった 2018 年度は大阪けいさつ病院、森之宮病院、多根総合病院を中心に内科専門研修を管理・運営しました。大阪市内は大規模～中規模病院の数が過密ですが、人口はそれ以上に過剰で、数多くの救急搬送に対応しています。都市部の地域医療に貢献することは、この救急医療を充実させることを意味します。内科専攻医には、救急に関するスキルをあげてもらうことで、地域医療に貢献してもらいます。2021 年度からは連携施設を拡充し、研修の充実をはかっています。

(2) 大阪府南部病院群：新専門医制度でのシーリングは都道府県単位ですが、同じ都道府県の中でも、医師の充足度には差があります。大阪府南部（泉州・南河内）は大阪府の中でも医師の充足度が課題とされる地域で、地域医療への貢献が期待されています。

(3) 北摂病院群：臓器別の内科系 Subspecialty 研修の充実をはかるため、箕面市立病院・市立池田

病院（消化器内科）、国立病院機構大阪刀根山医療センター（呼吸器内科／神経内科）が連携施設となっています。2025 年度からは、市立豊中病院・市立吹田市民病院に連携施設として加わっていただきました。大阪大学医学部附属病院は主に調整施設としての役割を果たしてもらいます。

(4) 兵庫県病院群：新専門医制度の理念に鑑み、シーリング県への貢献度を 2021 年度から引き上げました。内科専攻医も医師として、日本の医療事情の向上に貢献する責務を有していると考えます。ただ国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムと連携する兵庫県病院群はいずれも医療レベルの高い施設ですので、充実した専門研修ができることをお約束します。

(5) 香川大学医学部附属病院：主に循環器内科の専門研修の充実を目的に 2024 年度から連携施設になっていただきました。

④ 専門研修後の成果【整備基準 3】

1) 内科専門医の使命は、(1) 高い倫理観を持ち、(2) 最新の標準的医療を実践するとともに、先進医療の知見を熟知し、(3) 安心・安全な医療を心がけ、(4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

2) 内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが、それぞれの場に応じて、

1. 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医、家庭医）
2. 内科系救急医療の専門医
3. 病院での総合内科（generality）の専門医
4. 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、オールラウンダーとしての活躍が期待されています。このように、求められる内科専門医像は単一でなく、置かれた環境に応じて役割を果たすことができる可塑性のある幅広い内科専門医こそが地域住民、国民の信頼を獲得することができます。本プログラムの目的は、このような内科専門医を数多く輩出することにあります。

※ 国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムの内科専門研修施設群での研修終了後は、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と general なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、さらなるステップアップへのサポートをいたします。高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。希望者は国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムの内科専門研修施設群で引き続き Subspecialty 研修をすることも可能です。また、大阪市東部地区に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していますので、地域医療への総合内科医として送り出せるものと思います。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により、国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 10 名とします（基幹プログラム、連携プログラム合わせて）。

1) 国立病院機構大阪医療センター内科後期研修医（専攻医）は 3 学年併せて平均 30 名前後で、1 学年最大 10 名の受け入れが可能な実績があります。
2) 当院の内科系の剖検体数はコロナ禍の影響もあって、2021 年度 6 体、2022 年度 4 体、2023 年度 12 体、2024 年度 5 体とコロナ禍前と比較し、やや少ない剖検対数で推移していますが、連携施設からの按分を加え、2025 年度 10 体と充分な剖検数を確保しています。受け持ち期間を過ぎても、終末期に立ち会うことは大切な経験ですので、必ず担当患者が亡くなられた場合、剖検を経験してもらいます。
3) アレルギー、膠原病および類縁疾患領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療・連携施設研修を含め、1 学年 13 名に対し十分な症例を経験可能です。
4) 11 領域（消化器病、肝臓、循環器、腎臓、糖尿病／内分泌／内分泌代謝糖尿病、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症、救急）の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています。
5) 1 学年 13 名までの専攻医ですと、基幹施設として専攻医 1 年に研修する国立病院機構大阪医療センターの診療実績からみて、1 年目修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 36 疾患群、80 症例以上の診療経験と 14 症例以上の病歴要約の作成は達成可能です。

＜表 1　国立病院機構大阪医療センター診療科別診療実績＞

2025 年度 実績	新入院患者実数（人／年）	外来延患者数（延人数／年）
感染症内科	141	13,737
呼吸器内科	589	5,701
血液内科	367	3,790
循環器内科	1,981	27,507
消化器内科	2,023	27,883
腎臓内科	384	7,781
総合診療科	175	1,739
糖尿病内分泌内科	380	11,370
脳神経内科	563	5,448

6) 専攻医 2 年目に研修する連携施設では、1 年目に十分に経験できなかった 2 疾患群（アレルギー、膠原病および類縁疾患）の症例を受け持ってもらいます。連携施設には、大阪府災害拠点病院、大阪府指定第三次救急医療機関、様々ながん診療拠点病院が含まれ、専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です。
7) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群ほとんど、180 症例近くの診療経験は達成可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

① 専門知識【整備基準 4】「内科専門研修カリキュラム」の項目表を参照

専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」ならびに「救急」で構成されています。

「内科専門研修カリキュラム」の項目表に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。

② 専門技能【整備基準 5】「技術・技能評価手帳」参照

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

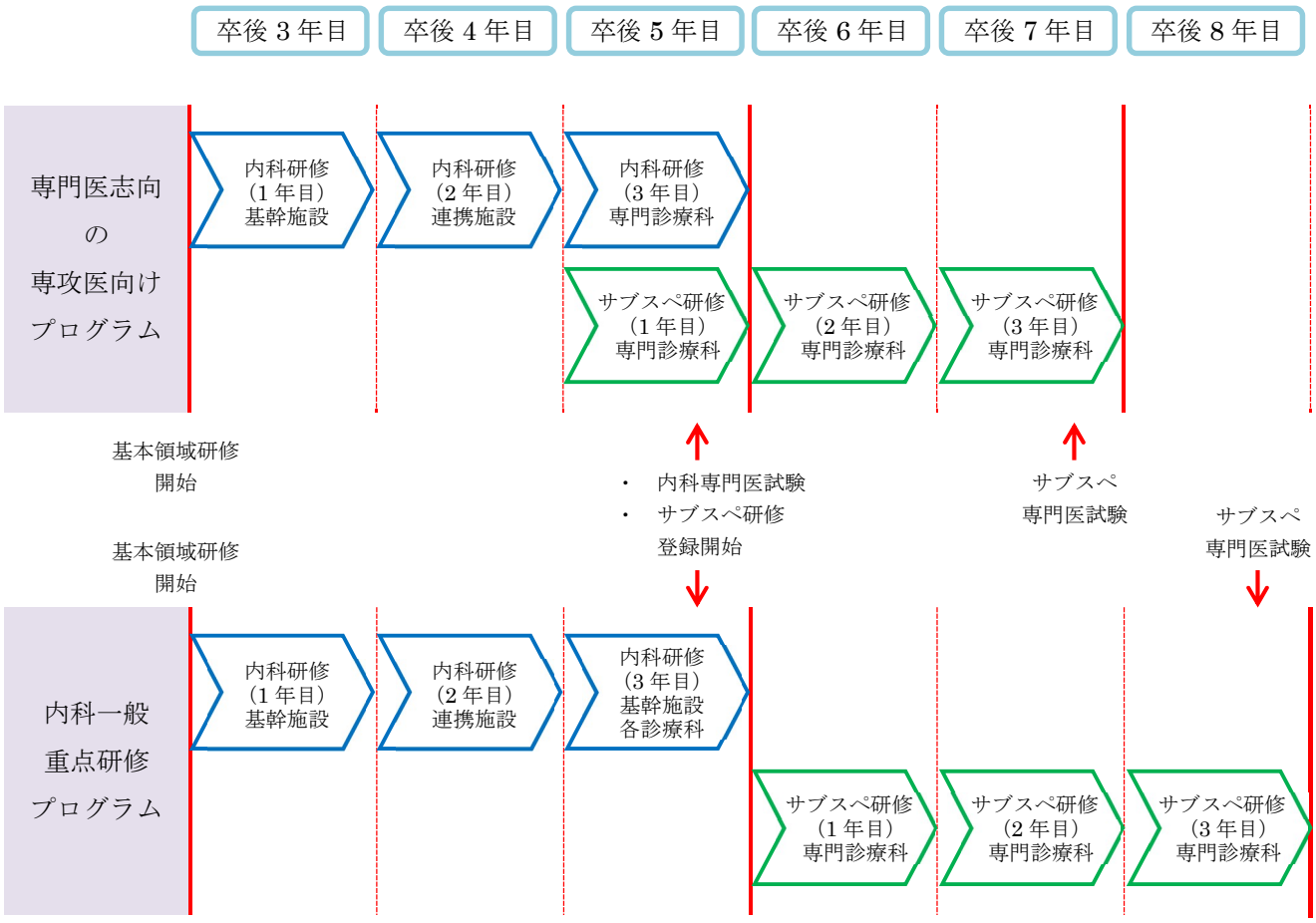
① 到達目標【整備基準 8～10】（巻末別表「各年次到達目標」 参照）

主担当医として 3 年間で「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、180 症例以上経験することを目標とします。

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムは専門医志向の Subspecialty 重点研修タイプのプログラムとして作成しました（図 2）。すなわち内科専攻医の 1～2 年目で、専門医試験申請に必要な症例の経験をすませ、専攻医 3 年目は Subspecialty 研修（図中サブスペ研修）に専念します（図 2 上段）。1～2 年目にも Subspecialty 診療科の研修期間をもうけることで、内科専攻医 3 年間のプログラムで、Subspecialty 研修期間を 2 年間にすることが可能です。一方、内科をじっくり研修したい専攻医は図 2 下段に示すように、専攻医 3 年目も各診療科をローテーションしてもらいます。応募は単一のプログラムとして、各診療科のローテーションの順番、研修期間の配分で、専攻医のニーズにこたえたいと思います。

連携施設で Subspecialty 研修することも想定しています。将来 Subspecialty として、多根総合病院および森之宮病院で神経内科を、国立病院機構近畿中央呼吸器センターで呼吸器内科を希望される専攻医は 3 年目の研修を当該施設で受けていただきます。

図 2. 初期研修後の研修スケジュール（あくまで概念図で Subspecialty 専門分野によって異なります）



具体的な 3 年間の標準研修スケジュールは以下の通りです。

(1) 2 年間、Subspecialty 研修を希望する場合 ＜表 2＞

1 年目研修 （国立病院機構大阪医療センター）	3 ヶ月を 1 単位として 4 つの診療科もしくは診療科群をローテーションしてもらいます。基本コースは「循環器内科」「消化器内科」を単独研修、「内科 I （脳神経内科・呼吸器内科・総合診療科）」「内科 II （腎臓内科・糖尿病内分泌内科・血液内科）」は診療科群として研修します。循環器内科を Subspecialty 研修する場合、「循環器内科」を 6 ヶ月＋「内科 I 」3 ヶ月＋「内科 II 」3 ヶ月もしくは「循環器内科」を 6 ヶ月＋「内科 I 」3 ヶ月＋「消化器内科」を選択してもらいます。ER 研修を総合診療科で行いますので、「内科 I 」の研修は必須といたします。ローテーションの都合で「総合診療科・血液内科」の 3 ヶ月になることもあります。Subspecialty 研修も大切ですが、1 年目は内科専門医受験の必須事項である 80 症例の経験を優先するようにしてください。

2 年目研修 （連携施設） 連携先の専攻医数によっては、連携施設の専門研修を 3 年目にすることがあります。	1 年目に研修できなかった疾患群の経験を積みます。 2 年間の Subspecialty 研修を希望される場合、その 2 年間の割り振りは、1 年目 6 ヶ月＋2 年目 6 ヶ月＋3 年目 12 ヶ月になります。2 年目の研修先は (1) 大阪市内・近辺病院群：比較的大阪医療センターから近距離の大阪けいさつ病院、森之宮病院、多根総合病院、大手前病院、市立東大阪医療センター、JCHO 大阪病院、大阪急性期・総合医療センター、日本生命病院で、神経内科や血液内科、膠原病内科を含む内科全般の研修を行います。 (2) 大阪府南部病院群：国立病院機構大阪南医療センター、国立病院機構近畿中央呼吸器センター、りんくう総合医療センターで膠原病内科、腎臓内科を含む内科全般の研修を行います。 (3) 北摂病院群：箕面市立病院、市立池田病院、市立豊中病院、市立吹田市民病院、市立伊丹病院、国立病院機構大阪刀根山医療センターで内科全般の研修を行います。大阪大学医学部附属病院はスーパーサブ的な存在となりますので、実際の研修先となるケースは少ないと思います。主に各連携施設での研修の調整役を担ってもらいます。 (4) 兵庫県病院群：関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、川崎病院、兵庫医科大学病院、川西市立総合医療センターで地域医療を考慮した内科全般の研修を行います。医師の偏在をなくす国の方針を鑑み兵庫県病院群との連携を推進しています。採用に関しても、この主旨への理解を重視したいと思います。 (5) 香川大学医学部附属病院：主に循環器内科の専門研修のパートナーとして連携施設に加わっていただきました。 ※　研修先の連携施設選定に関しては、連携先の事情もあるため、必ずしも希望にそえないことがあります。
3 年目研修 （国立病院機構大阪医療センター）	希望される Subspecialty 診療科で専門研修を行います。 ※　Subspecialty 診療科を決めず、内科をじっくり研修したい専攻医は 3 年目の研修をローテーションしてもらいます。

(2) 3 年目を連携施設 A 病院での Subspecialty 研修にあてる場合

将来 Subspecialty として、連携施設である多根総合病院および森之宮病院で神経内科を希望される専攻医は 3 年目の研修を当該施設で受けていただきます。＜表 2＞の 3 年目が当該の連携病院になります。これら以外の選択肢も柔軟に対応していきます。

給与に関しては当該施設で支給されますが、宿舎については「もともと寮がなく住宅手当として支給する」施設や「寮はあるが人数に制限がある」施設など、まちまちでその都度対応することになります。

表 3. 国立病院機構大阪医療センターで循環器内科を Subspecialty 研修するケースの 1 例

基幹＝大阪医療センター2 年 ［　　］、連携 1 年 ［　　］の研修期間になります。

<table>
<tr><td>専攻医研修</td><td>4 月</td><td>5 月</td><td>6 月</td><td>7 月</td><td>8 月</td><td>9 月</td><td>10 月</td><td>11 月</td><td>12 月</td><td>1 月</td><td>2 月</td><td>3 月</td></tr>
<tr><td rowspan="3">1 年目</td><td colspan="6">Subspecialty 診療科＝循環器内科</td><td colspan="3">内科 I （必須）</td><td colspan="3">内科 II もしくは
消化器内科</td></tr>
<tr><td colspan="12">ローテの調整は内科研修センターが管理します。内科 I の 3 ヶ月は必須。Subspecialty 診療科以外の研修は、症例の経験の進捗にあわせて、相談することになります。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="11">5 月から 1～2 回／月のプライマリ・ケア当直研修を行います</td></tr>
<tr><td rowspan="8">2 年目</td><td></td><td colspan="11">1 年目に JMECC の受講</td></tr>
<tr><td colspan="3">連携①</td><td colspan="3">連携②</td><td colspan="3">連携③</td><td colspan="3">連携④</td></tr>
<tr><td colspan="12">大阪医療センター内科研修委員会で研修できていない疾患群の確認を行い、2 年目の研修は、主に残りの 2 疾患群（膠原病、アレルギー）の研修を下記の連携施設で行います。各連携施設での研修は最低 3 ヶ月とします。</td></tr>
<tr><td colspan="12">大阪市内・近辺病院群：大阪けいさつ病院、森之宮病院、多根総合病院、大手前病院、市立東大阪医療センター、JCHO 大阪病院、大阪急性期・総合医療センター、日本生命病院</td></tr>
<tr><td colspan="12">大阪府南部病院群：国立病院機構大阪南医療センター、国立病院機構近畿中央呼吸器センター、りんくう総合医療センター</td></tr>
<tr><td colspan="12">北摂病院群：箕面市立病院、市立池田病院、市立豊中病院、市立吹田市民病院、国立病院機構大阪刀根山医療センター、大阪大学医学部附属病院</td></tr>
<tr><td colspan="12">兵庫県病院群：市立伊丹病院、関西労災病院、兵庫県立西宮総合医療センター、川崎病院、兵庫医科大学病院、川西市立総合医療センター</td></tr>
<tr><td colspan="12">香川大学医学部附属病院</td></tr>
<tr><td colspan="9"></td><td colspan="3">内科専門医取得のための病歴提出準備</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3 年目</td><td colspan="12">Subspecialty 診療科＝循環器内科</td></tr>
<tr><td colspan="12">初診＋再診外来 週 1 回（診療科によって異なります）</td></tr>
<tr><td colspan="12">※　Subspecialty 研修を希望しない場合は 3 年目もローテーション研修になります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">そのほかのプログラムの要件</td><td colspan="10">・医療倫理に関する講習会（年 3 回開催）…… 出席が必要です
・医療安全講習会（年 14 回開催）…… 出席してください
・感染対策講習会（年 12 回開催）…… 出席してください
・CPC（毎月第 1 水曜日開催）…… 毎回出席してください</td></tr>
</table>

内科研修の標準的な 1 週間の研修内容を各診療科別に示します。
（ピンク部分は特に教育的な行事です）

内科研修プログラムの週間スケジュール：感染症内科 ＜表 4＞

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td colspan="5">受持患者の病状把握</td><td rowspan="5">内科学会・Subspecialty 学会の地方会（適宜）

週末日直あるいは宿直（数回／月）</td></tr>
<tr><td>外来／病棟</td><td>外来／病棟</td><td>外来／病棟</td><td>外来／病棟</td><td>外来／病棟</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td>病棟</td><td>感染症内科病棟カンファ、回診</td><td>病棟</td><td>病棟</td><td>病棟</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>感染症内科外来カンファレンス（全職種）</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td rowspan="2">感染症内科抄読会</td><td>CPC（月 1 回）
Cancer Board（月 1 回）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="5">当直（2～3 回／月）</td></tr>
</table>

内科研修プログラムの週間スケジュール：呼吸器内科 ＜表 5＞

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td>午前</td><td>外来／病棟</td><td>気管支鏡検査</td><td>外来／病棟</td><td>気管支鏡検査</td><td>外来／病棟</td><td rowspan="5">内科学会・Subspecialty 学会の地方会（適宜）

週末日直あるいは宿直（数回／月）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td rowspan="2">呼吸器内科カンファレンス→病棟回診</td><td rowspan="2">外来／病棟</td><td rowspan="2">外来／病棟</td><td rowspan="2">外来／病棟</td><td>15:30～呼吸器合同カンファレンス</td></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><td>CPC（月 1 回）
腫瘍内科カンファレンス（毎週）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="5">当直（2～3 回／月）</td></tr>
</table>

内科研修プログラムの週間スケジュール：循環器内科 ＜表 6＞

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td colspan="5">受持患者の病状把握</td><td rowspan="6">内科学会・Subspecialty 学会の地方会（適宜）

週末日直あるいは宿直（数回／月）</td></tr>
<tr><td>循環器内科救急当番</td><td>心筋シンチ検査
CPX（心肺運動負荷試験）</td><td>トレッドミル運動負荷検査
カテーテルアブレーション</td><td>心臓カテーテル検査</td><td>心臓カテーテル検査</td></tr>
<tr><td rowspan="4">午後</td><td>循環器内科 CCU 当番</td><td>心臓リハビリテーション カンファ</td><td>カテーテルアブレーション</td><td>心エコー検査/ 心不全多職種カンファ</td><td>経食道心エコー検査</td></tr>
<tr><td colspan="5">病棟受持患者の治療方針を上級医師と相談・チームで診療を行います</td></tr>
<tr><td colspan="5">16 時 30 分～当日の入院カンファレンス、カテーテルカンファレンス</td></tr>
<tr><td></td><td>Brain Heart Team カンファレンス / 抄読会（隔週）</td><td>心臓血管外科合同ハートチームカンファレンス</td><td>心不全カンファレンス</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="5">当直（2～3 回／月）</td></tr>
</table>

内科研修プログラムの週間スケジュール：消化器内科 ＜表 7＞

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td colspan="5">受持患者の病状把握</td><td rowspan="7">内科学会・Subspecialty 学会の地方会（適宜）

週末日直あるいは宿直（数回／月）</td></tr>
<tr><td>大腸カンファレンス</td><td>内視鏡カンファレンス</td><td>内科外科カンファレンス（月 1 回病理カンファ）</td><td>内視鏡カンファレンス</td><td>内視鏡カンファレンス</td></tr>
<tr><td>消化器内科初診外来</td><td>腹部エコーの技術指導</td><td>腹部エコーの技術指導</td><td>上部消化管内視鏡の技術指導</td><td>下部消化管内視鏡の技術指導</td></tr>
<tr><td rowspan="4">午後</td><td>消化器内科再診外来</td><td>治療内視鏡の技術指導</td><td>胆膵内視鏡の技術指導</td><td>超音波下肝処置の技術指導</td><td>病棟業務</td></tr>
<tr><td colspan="5">患者申し送り</td></tr>
<tr><td rowspan="2">消化器内科カンファレンス 症例検討会</td><td rowspan="2"></td><td>CPC（月 1 回）</td><td rowspan="2"></td><td>病棟回診</td></tr>
<tr><td>Cancer Board（月 1 回）</td><td>肝胆膵カンファレンス</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="5">当直（2～3 回／月）</td></tr>
</table>

内科研修プログラムの週間スケジュール：総合診療科 ＜表 8＞

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td colspan="5">受持患者の病状把握</td><td rowspan="4">内科学会・Subspecialty 学会の地方会（適宜）

週末日直あるいは宿直（数回／月）</td></tr>
<tr><td colspan="5">外来／時間内救急／病棟</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td colspan="5">外来／時間内救急／病棟</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>CPC（月 1 回）
Cancer Board（月 1 回）</td><td></td><td>示唆に富む症例とその考察を月末にプレゼンしてもらいます</td></tr>
<tr><td colspan="5">当直（2～3 回／月）</td></tr>
</table>

内科研修プログラムの週間スケジュール：血液内科 ＜表 9＞

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td colspan="5">病棟・受け持ち患者の病状把握</td><td rowspan="4">内科学会・Subspecialty 学会の地方会（適宜）

週末日直あるいは宿直（数回／月）</td></tr>
<tr><td colspan="5">外来／処置（月･木曜は科長と外来）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td colspan="5">病棟業務</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>病棟カンファ</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>CPC（月 1 回）
Cancer Board（月 1 回）</td><td></td><td>骨髄標本の検鏡</td></tr>
<tr><td colspan="5">当直（2～3 回／月）</td></tr>
</table>

内科研修プログラムの週間スケジュール：糖尿病内分泌内科 ＜表 10＞

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td rowspan="10">午前
午後</td><td colspan="5">1 型糖尿病・先進糖尿病治療　病棟朝回診　15 分</td><td rowspan="10">内科学会・
Subspecialty
学会の地方会
（適宜）

週末日直
あるいは
宿直
（数回／月）</td></tr>
<tr><td>糖尿病外来（週 1 枠）</td><td>頸部エコー（頸動脈・甲状腺）</td><td>糖尿病外来（週 1 枠）</td><td>頸部エコー（頸動脈・甲状腺）</td><td>糖尿病外来（週 1 枠）</td></tr>
<tr><td colspan="5">病棟・受け持ち患者の病状把握</td></tr>
<tr><td></td><td>1 型専門外来（月 1 回予約制）</td><td rowspan="2">症例カンファレンス、
科内医局会</td><td rowspan="2">1 型専門外来（予約制）</td><td>糖尿病教室</td></tr>
<tr><td colspan="2">内分泌外来（週 1 枠）</td><td>病棟回診</td></tr>
<tr><td colspan="3">内分泌外来（週 1 枠）</td><td colspan="2">病棟・受け持ち患者の病状把握</td></tr>
<tr><td colspan="5">1 型糖尿病・先進糖尿病治療　病棟夕回診　15 分</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>CPC（月 1 回）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>Cancer Board（月 1 回）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">当直（2～3 回／月）</td></tr>
</table>

内科研修プログラムの週間スケジュール：腎臓内科 ＜表 11＞

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td rowspan="10">午前
午後</td><td colspan="5">受持患者の病状把握</td><td colspan="2" rowspan="2">内科学会・
Subspecialty
学会の地方会
（適宜）</td></tr>
<tr><td>重症症例報告会</td><td>病棟業務</td><td>病棟業務</td><td>入院症例検討会</td><td>病棟業務</td></tr>
<tr><td>腎内外来/病棟</td><td></td><td></td><td>腎生検</td><td>腎内外来/病棟</td><td colspan="2">週末日直
あるいは
宿直
（数回／月）</td></tr>
<tr><td colspan="5">透析室業務</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="5">透析室業務</td></tr>
<tr><td>腎内外来/病棟</td><td>病棟業務</td><td>病棟業務</td><td>腎エコー・ドップラー</td><td>腎内外来/病棟</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">入退院報告会</td><td rowspan="2">腎病理検討会
腎内医局会
抄読会</td><td>CPC（月 1 回）</td><td rowspan="2">腎内外来/
病棟</td><td rowspan="2">血液浄化
症例検討会</td></tr>
<tr><td>Cancer Board（月 1 回）</td></tr>
<tr><td colspan="5">当直（2～3 回／月）</td></tr>
</table>

内科研修プログラムの週間スケジュール：脳神経内科 ＜表 12＞

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td colspan="5">受け持ち患者の病態把握ののち、SCU 回診</td><td rowspan="5">内科学会・Subspecialty 学会の地方会（適宜）

週末日直あるいは宿直（数回／月）</td></tr>
<tr><td>脳外科・脳内科合同カンファレンス</td><td></td><td>抄読会</td><td>脳血流 SPECT</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">初診外来／時間内救急／病棟業務</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td colspan="5">時間内救急／病棟業務</td></tr>
<tr><td>脳波・筋電図（適宜）</td><td>脳血管撮影（適宜）
頸動脈エコー（外来）</td><td>経食道心エコー（適宜）</td><td>脳血管撮影（適宜）</td><td>頸動脈エコー（外来）</td></tr>
<tr><td></td><td>回診
Brain Heart Team カンファレンス（隔週）</td><td>CPC（月 1 回）
Cancer Board（月 1 回）</td><td>リハ・MSW 合同カンファレンス</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">当直（2～3 回／月）</td></tr>
</table>

内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定されます。

★　専門研修（専攻医）1 年目

- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 36 疾患群、80 症例以上を基幹施設である国立病院機構大阪医療センターで経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。（初期研修期間の経験症例数によっては、さらに進捗ははやくなると思います。また、余裕があれば、Subspecialty 研修に時間をさくことは可能です。）
- 専門研修修了に必要な病歴要約を 14 症例以上記載して J-OSLER に登録します。
- 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

★　専門研修（専攻医）2 年目

- 症例：1 年目で経験できなかった疾患群を中心に、連携施設で研修を行い、「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 56 疾患群、120 症例以上を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。
- 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します。
- 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

★　専門研修（専攻医）3 年目

- 症例：基幹施設である国立病院機構大阪医療センターで引き続き研修を積み、主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、180 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。（将来 Subspecialty として、連携施設である多根総合病院で神経内科を、近畿中央呼吸器センターで呼吸器内科を希望される専攻医は 3 年目の研修を当該施設で受けていただきます。）
- 専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。Subspecialty 研修をめざしますので、専門診療科の研修内容は資料を参考にしてください。
- 既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意してください。
- 技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を

自立して行うことができます。また、専門医の 2 階建て部分に相当する Subspecialty の専門研修も、3 年目から開始することが可能です。（Subspecialty 学会によって方針が異なりますので、詳細は各学会の指針を参考にしてください）

- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

また、全体を通して、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験を必要とします。J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムでは，「内科専門研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 1 年間以上＋連携施設 1 年間以上）としますが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始します。

② 臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記 1）～5）参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

1) 内科専攻医は、担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
2) 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
3) 総合診療科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます。
4) 救急初療外来（平日時間内、当直時）で内科領域の救急診療の経験も積みます。
5) 当直医として病棟急変などの経験を積みます。
6) 必要に応じて、Subspecialty 診療科検査を担当します。

③　臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1）内科領域の救急対応、2）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3）標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4）医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5）専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。

- 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
- 医療倫理（年 3 回）・医療安全（年 14 回）・感染防御（年 12 回）に関する講習会
  - ✧　（）内は基幹施設大阪医療センターにおける 2025 年度の開催実績
  - ✧　内科専攻医が上記講習会を受講できる時間は確保しています。
- CPC（基幹施設大阪医療センター2025 年度の開催実績 8 回）
- 研修施設群合同カンファレンス（2025 年度：年 2 回開催）
- 地域参加型のカンファレンス（基幹施設大阪医療センター2025 年度開催実績：法円坂地域医療フォーラム、3 回；オンコロジーセミナー、12 回；緩和ケアセミナー、12 回）
- JMECC 受講（基幹施設：2025 年度 1 回開催、今後も年 1 回開催予定）
  - ✧　内科専攻医は必ず専門研修 1 年目に受講してください。
- 内科系学術集会（発表の機会をもうけます）
- 各種指導医講習会／JMECC 指導者講習会

など

④　自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例だが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した）、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と 分類している。（「研修カリキュラム項目表」参照）

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します。

1)　内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
2)　日本内科学会雑誌にある MCQ
3)　日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

⑤　研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します。

- 専攻医は全 70 疾患群の経験と 180 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- 専攻医による逆評価を入力して記録します。
- 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載しました。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である国立病院機構大阪医療センター内科専門研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢にあります。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても、

1)　患者から学ぶという姿勢を基本とします
2)　科学的な根拠に基づいた診断，治療を行います（EBM；evidence based medicine）
3)　最新の知識，技能を常にアップデートします（生涯学習）
4)　診断や治療の evidenceの構築・病態の理解につながる研究を行います
5)　症例報告を通じて深い洞察力を磨く

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。

併せて、

1)　初期研修医あるいは医学部学生の指導を行います
2)　後輩専攻医の指導を行います
3)　メディカルスタッフを尊重し、指導を行います

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムの内科研修施設群は基幹病院、連携病院のいずれにおいても

1)　日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します
2)　経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います
3)　臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います
4)　内科学に通じる基礎研究を行います
を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力である。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムの内科研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記 1）～10）について積極的に研鑽する機会を与えます。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である国立病院機構大阪医療センター内科専門研修センターが把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。
1)　患者とのコミュニケーション能力
2)　患者中心の医療の実践
3)　患者から学ぶ姿勢
4)　自己省察の姿勢
5)　医の倫理への配慮
6)　医療安全への配慮
7)　公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
8)　地域医療保健活動への参画
9)　他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
10)　後輩医師への指導
※　教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムの内科専門研修施設群は 4 つの地域の病院群と連携をとります。

(1) 大阪市内・近辺病院群：国立病院機構大阪医療センターは大阪市東部地区の中心的な急性期病院であ

るとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。この地域の連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、大阪府第三次救急指定病院やがん診療拠点病院を加えています。このように、近隣連携施設は、一次・二次救急をはじめ、地域における医療を支えている中核的な病院であり、いずれも都市部にはありますが地域医療を学ぶに適切な医療機関です。

(2) 大阪府南部病院群：同じ大阪府での医療提供体制は大阪市内に比べ、手薄と言えます。その地区で中隔を担う 3 病院が連携施設です。国立病院機構大阪南医療センターには免疫内科（膠原病）・腎臓内科を、国立病院機構近畿中央呼吸器センターには呼吸器内科を、りんくう総合医療センターには循環器内科をお願いし、内科系 Subspecialty 研修をお願いするとともに、当該地区の地域医療に貢献していただきます。

(3) 北摂病院群：内科系 Subspecialty 研修をより充実するため、北摂地区の病院も連携施設に加わっていただきました。国立病院機構大阪医療センターと異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修してもらいます。特に大阪府は大気汚染から呼吸器疾患を有する高齢者が多い一方、呼吸器内科医が少ない現状があります。呼吸器内科を Subspecialty に志望する専攻医だけでなく、他の Subspecialty を志望する専攻医にも、呼吸器内科診療を深く研修できるよう呼吸疾患に特化した国立病院機構大阪刀根山医療センターや(2)の国立病院機構近畿中央呼吸器センターも連携病院に加わっていただきました。

(4) 兵庫県病院群：医師の偏在を是正し、地域医療を護るという国の方針が示されています。2021 年度からは非シーリング県の病院にも連携施設になっていただきました。内科系 Subspecialty 研修を経験するには医療レベルの高い病院で、当該地域の救急医療に貢献することで、全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。

(5) 香川大学医学部附属病院：高度急性期治療を要する循環器内科の専門研修を充実するため、2024 年度から連携施設に加わっていただきました。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムの内科専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

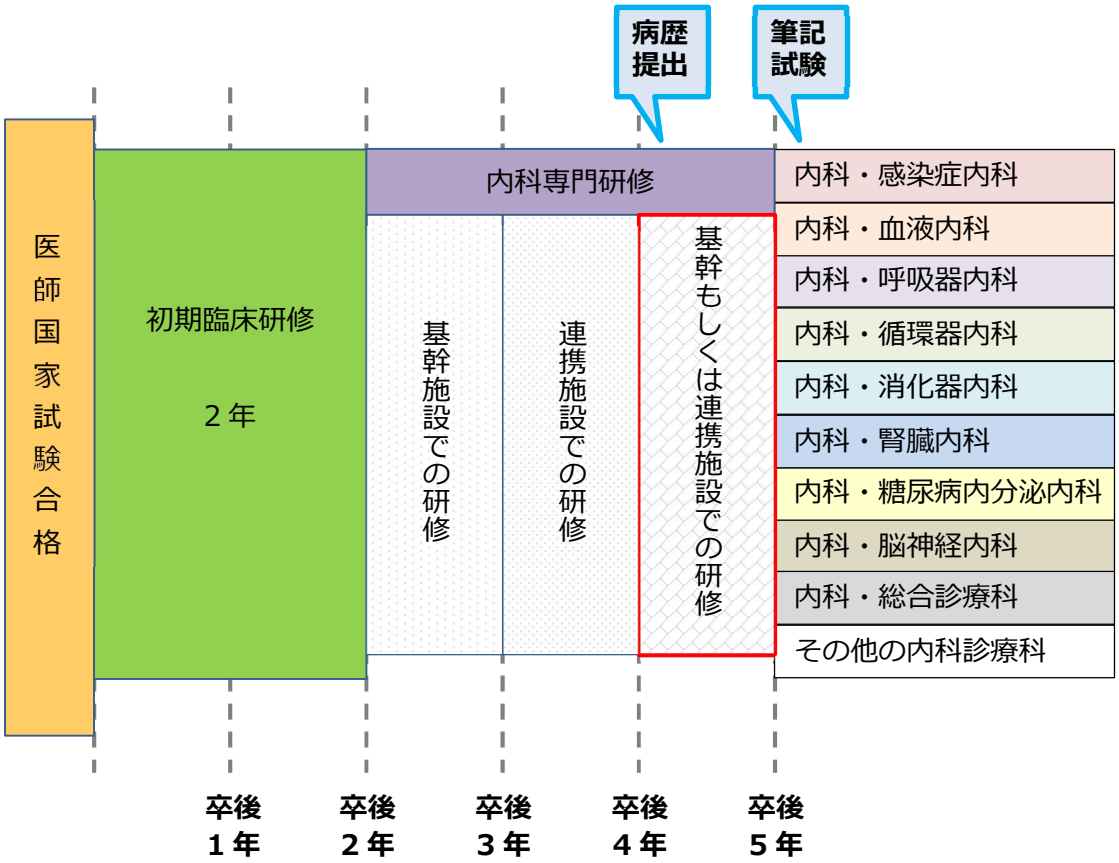
国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムの内科専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

本プログラムでは、基幹施設である国立病院機構大阪医療センターで、まず専門研修（専攻医）1 年目を行います。1 年目の終わりに、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、医師としての姿勢を評価します。国立病院機構大阪医療センターでは主に 10 疾患群の研修となりますので、専攻医 2年目は連携施設で、残り 3 疾患群の臨床経験を積むことになります。専門研修（専攻医）2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度などを基に、専門研修（専攻医）3年目の Subspecialty 研修の準備をします。3 年目は Subspecialty 研修に専念するとともに、病歴提出を完成してもらいます。

なお、病院総合内科医をめざす専攻医には、研修の 3 年目で再度各内科診療科をローテーションしてもらうことで対応します。

図 3　国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム（モデル図）



12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19-22】

(1) 大阪医療センター内科研修センターの役割

- 国立病院機構大阪医療センター内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
- 国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER の研修手帳 Web版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- 3ヶ月毎に研修手帳 Web版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 6ヶ月毎に病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 6ヶ月毎にプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 年に複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され、1ヶ月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。
- 内科専門研修センターは、メディカルスタッフによる 360度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、内科研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は J-OSLER を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。
- 日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- 専攻医1人に1人の担当指導医（メンター）が国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム委員会により決定します。
- 専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認します。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 専攻医は、1年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 36 疾患群、80 症例以上の経験と登録を行うようにします。2年目専門研修終了時に 70疾患群のうち 56 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70疾患群のほとんど、180 症例近くの経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容はその都度、担当指導医が評価・承認します。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web版での専攻医による症例登録の評価や内科研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialtyの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialtyの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよ

う、主担当医の割り振りを調整します。

- 担当指導医は Subspecialty上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 専攻医は、専門研修（専攻医）2年修了時までに 120 症例、J-OSLER に症例登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科専門研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに国立病院機構大阪医療センター内科専門研修管理委員会で検討し，統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

1) 担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、以下 i）～vi）の修了を確認します。
   i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 180 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができる）を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1割まで含むことができる）を経験し、登録済であること（別表「年次別到達目標」）
   ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）
   iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
   iv) JMECC 受講
   v) プログラムで定める講習会受講
   vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性
2) 国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 ヶ月前に国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、J-OSLER を用います。

なお、「国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム専攻医研修マニュアル」と「国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム指導者マニュアル」は別に用意しています。

13. 内科専門研修プログラム管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37-39】

「国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会」参照

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

1) 国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者、プログラム管理者、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます。国立病院機構大阪医療センター内科専門研修管理委員会の事務局を、国立病院機構大阪医療センター内科専門研修センターにおきます。

2) 国立病院機構大阪医療センター内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 6 月と 12 月に開催する国立病院機構大阪医療センター内科専門研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、国立病院機構大阪医療センター内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。

① 前年度の診療実績

a) 病院病床数、b) 内科病床数、c) 内科診療科数、d) 1 ヶ月あたり内科外来患者数、e) 1 ヶ月あたり内科入院患者数、f) 剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a) 前年度の専攻医の指導実績、b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数、c) 今年度の専攻医数、d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数

③ 前年度の学術活動

a) 学会発表、b) 論文発表

④ 施設状況

a) 施設区分、b) 指導可能領域、c) 内科カンファレンス、d) 他科との合同カンファレンス、e) 抄読会、f) 机、g) 図書館もしく図書室、h) 文献検索システム、i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j) JMECCの開催

⑤ Subspecialty 領域の専門医

日本消化器病学会消化器専門医
日本循環器学会循環器専門医
日本内分泌学会専門医
日本糖尿病学会専門医
日本腎臓病学会専門医
日本呼吸器学会呼吸器専門医
日本血液学会血液専門医
日本神経学会神経内科専門医
日本アレルギー学会専門医（内科）
日本感染症学会専門医
日本救急医学会救急科専門医

日本肝臓学会肝臓専門医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のための資料を活用します。
厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。
専門研修（専攻医）1 年目、3 年目は基幹施設である国立病院機構大阪医療センターの就業環境に、専門研修（専攻医）2 年目は連携施設の就業環境に基づき、就業します。

基幹施設である国立病院機構大阪医療センターの整備状況：

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります
- 国立病院機構大阪医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています
- メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課長）があります
- ハラスメント委員会が国立病院機構大阪医療センター内に整備されています
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています
- 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。専門研修施設群の各研修施設の状況については、「国立病院機構大阪医療センター内科専門施設群」を参照

また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48-51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価
J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス
専門研修施設の内科専門研修委員会、国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専

攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- 担当指導医、施設の内科研修委員会、国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニターし、国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムを評価します。
- 担当指導医、各施設の内科研修委員会、国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニターし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修センターと国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は、国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムの改良を行います。

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、毎年 7 月から websiteでの公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、11 月 30 日までに国立病院機構大阪医療センター内科専門研修センターの website の国立病院機構大阪医療センター医師募集要項（国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考および面接を行い、翌年 1 月の国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。

（問い合わせ先）国立病院機構大阪医療センター　職員研修部

E-mail： 408-kshokuin@mail.hosp.go.jp

HP： https://osaka.hosp.go.jp/kyujin/koukikensyu/bosyu/

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく J-OSLER にて登録を行います。

18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムへの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしていれば、休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とする）を行なうことによって研修実績に加算します。

留学期間は、原則として研修期間として認めません。

19. 専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。国立病院機構大阪医療センター内科専門研修施設群研修施設は主に大阪市内の医療機関から構成されています。

国立病院機構大阪医療センターは、大阪市東部地区の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院だけでなく、地域基幹病院および地域医療密着型病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では、国立病院機構大阪医療センターと異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

表 13. 各研修施設の概要

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	大阪医療センター	605	267	9	42	29	10
連携施設	大阪けいさつ病院	650	242	8	20	29	6
連携施設	多根総合病院	304	105	5	15	10	0
連携施設	森之宮病院	355	170	6	11	7	0
連携施設	大阪大学医学部附属病院	1086	271	10	82	145	4
連携施設	大阪南医療センター	384	198	13	15	12	3
連携施設	大阪刀根山医療センター	400	346	5	14	17	6
連携施設	近畿中央呼吸器センター	276		6	11	21	2
連携施設	大手前病院	401	169	8	11	12	1
連携施設	JCHO 大阪病院	565	207	6	13	16	5
連携施設	りんくう総合医療センター	388	123	8	12	15	10
連携施設	市立池田病院	364	194	8	23	21	8
連携施設	箕面市立病院	317	150	5	9	10	2
連携施設	大阪急性期･総合医療センター	865	272	9	31	32	10
連携施設	市立東大阪医療センター	520	157	10	16	13	5
連携施設	市立伊丹病院	414	176	10	31	18	12
連携施設	関西労災病院	642	223	5	21	20	7
連携施設	西宮総合医療センター	502	218	11	52	29	0
連携施設	川崎病院	278	170	6	16	18	3
連携施設	香川大学医学部附属病院	613	177	11	51	38	2
連携施設	市立豊中病院	549	213	8	25	24	8
連携施設	市立吹田市民病院	431	185	8	24	20	4
連携施設	日本生命病院	350	144	7	20	20	7
連携施設	兵庫医科大学病院	897	283	10	58	59	9
連携施設	川西市立総合医療センター	405	119	8	10	6	9
連携施設	大阪労災病院	678	205	6	16	26	6

表 14. 各内科専門研修施設の内科 13 分野の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
大阪医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
大阪けいさつ病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
多根総合病院	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○
森之宮病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	×	△	○
大阪大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△
大阪南医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪刀根山医療センター	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×
近畿中央呼吸器センター	△	×	×	×	×	×	○	×	×	△	△	○	△
大手前病院	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
JCHO 大阪病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○
りんくう総合医療センター	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○
市立池田病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
箕面市立病院	○	○	○	○	○	△	△	○	○	△	×	○	○
大阪急性期･総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立東大阪医療センター	○	○	○	△	○	○	△	○	○	△	○	○	○
市立伊丹病院	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○
関西労災病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
西宮総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川崎病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○
香川大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立豊中病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立吹田市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本生命病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川西市立総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○
大阪労災病院	○	○	○	○	○	○	△	×	○	△	△	○	○

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○、△、×）に評価しました。

＜ ○：研修できる、△：時に研修できる、×：ほとんど研修できない ＞

連携施設では担当していただく診療科以外は空欄にしています。

20. 専門研修施設（連携施設）の選択

✧ 専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
✧ 原則、専攻医 2 年目の 1 年間、連携施設で研修をします（図 1）。
✧ 専攻医の希望・将来像によって 3 年目研修を連携施設で Subspecialty 研修することも可能です。

21. 専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

国立病院機構大阪医療センターは大阪市（東部）医療圏に属しますが、大阪メトロ中央線および谷町線の谷町四丁目駅に直結しており、大阪府南部病院群、兵庫県病院群へのアクセスは良好です。もちろん連携施設にローテーションする期間は、連携先病院の近くに住むことを考えてもよいでしょう。

国立病院機構大阪医療センター

内科専門研修プログラム施設群

各病院の概要

1）専門研修基幹施設

国立病院機構大阪医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構大阪医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対しては管理課長が適切に対処します。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 42 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修センターを設置します。 ・医療倫理は年 3 回開催される臨床研究セミナー内で講義され、専攻医は受講が義務付けされます。医療安全セミナーを年 14 回、感染対策セミナーを年 12 回開催し、専攻医に受講を義務付けます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 ・CPC を毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（法円坂地域医療セミナー、オンコロジーセミナー、緩和ケアセミナー）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的な余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的な余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 69 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会（適宜開催）と受託研究第 2 審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は臨床研究推進室が担当し、受託研究第 1 審査委員会（月 1 回）で審査しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。
指導責任者	柴山浩彦 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構大阪医療センターは、大阪府 2 次医療圏である大阪市東部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3 年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 42 名 日本内科学会総合内科専門医 29 名　日本内科学会専門医（新制度）7 名 日本循環器学会専門医 12 名　日本消化器病学会専門医 14 名 日本肝臓学会専門医 9 名　日本呼吸器学会専門医 7 名 日本腎臓学会専門医 3 名　日本糖尿病学会専門医 5 名 日本内分泌学会専門医 3 名　日本血液学会専門医 5 名 日本神経学会専門医 7 名　日本アレルギー学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 3 名　日本消化器内視鏡学会専門医 11 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名
外来・入院 患者数	外来患者　年間　240,696 名　（1 ヶ月平均 20,058 人） 新入院患者 年間　15,793 名　（1 ヶ月平均　1,316 人）
経験できる	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、69 疾患群の症例を幅広く経

疾患群	験することができます
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら 幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　日本神経学会準教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設　日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設　日本胆道学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設　日本呼吸器内視鏡学会診療施設 日本腎臓学会研修施設　日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設　日本血液学会血液研修施設 日本脳卒中学会研修教育病院　日本脳神経血管内治療学会研修施設 日本感染症学会研修施設　日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設

2) 専門研修連携施設

大阪けいさつ病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型，協力型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります ・常勤医師（特定任期付職員）として労務環境が保障されています ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課厚生係）があります ・ハラスメント窓口（人事課）が整備されています ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩コーナー，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています ・院内に病児保育室があり，利用可能です ・託児手当があり，利用可能です（子が 3 歳に達する迄）
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 20 名在籍しています(2026 年 4 月現在) ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長)），副統括責任者にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と内科専門医研修管理室を設置します ・医療倫理，医療安全，感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 16 回，2025 年度実績 16 回，2026 年度実績 11 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2025 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 13 回, 2024 年度実績 13 回、2025 年度実績 9 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕をあたえます ・地域参加型のカンファレンス（天王寺区医師会・病院合同講演会年 1 回，臨床医講習会年 4 回，各内科診療科地域連携講演会年 5 回前後，夕陽丘緩和ケア連絡会年 3-4 回など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 度実績 1 回，2024 度実績 1 回、2025 年度実

	績 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門医研修管理室が対応します
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます ・専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 10 体，2024 年度実績 6 体、2025 年度実績 7 体）を行っています
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、OA ルームなどを整備しています ・倫理委員会を設置し，定期的に（2023 年度実績 12 回，202 4 年度実績 12 回、2025 年度実績 12 回）開催しています ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2023 年度実績 11 回，2024 年度実績 11 回,2025 年度　回実績）しています ・日本内科学会講演会（および内科学会ことはじめ）あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 5 題，2024 年度実績 5 題）をしています ・学会等への参加は出張扱いとし，出張費を支給しています（当院規定による）
指導責任者	飯島英樹 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪警察病院は，大阪府大阪市二次医療圏の中心的な急性期病院であり，二次医療圏・近隣医療圏にある連携施設と内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 地域医療における救急診療の要として,「断らない医療をモットー」に二次医療圏のみならず，大阪府下・近隣府県の救急疾患・急性期疾患の医療に応需しております. 内科専門医外来，ＥＲ・総合診療センターにおける外来・当直研修を通じて，初期診療に十分対応しえる医師をめざした研修を，また，高齢者医療，慢性期疾患，癌疾患などの継続的な診療など，多数の症例を経験することができます．一方，入院症例においては，入院から退院（初診・入院～退院・通院）経時的に，診断・治療の流れを経験することで，主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざしていただけます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 20 名，日本内科学会総合内科専門医 35 名 日本消化器病学会消化器専門医 16 名，日本肝臓学会肝臓専門医 9 名， 日本循環器学会循環器専門医 10 名，日本糖尿病学会専門医 5 名， 日本内分泌学会専門医 5 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名， 日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本感染症学会専門医 1 名， 日本救急医学会救急科専門医 6 名　　ほか （2026 年 4 月現在）
外来・入院患者数 (2024 年度実績)	（病院全体）外来患者 34,639 名（1 ヶ月平均），入院患者 17,934 名（1 ヶ月平均） （うち内科系）外来患者 21, 803 名（1 ヶ月平均），入院患者 12，483 名（1 ヶ月平均)）
経験できる疾患群	きわめてまれな疾患をのぞいて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療，病診，病病連携なども経験できます
学会認定施設（内科系）	日本内科学会　専門医制度認定教育病院　　日本感染症学会　認定研修施設 日本肝臓学会　認定医制度認定施設　　日本がん治療認定医機構　認定研修施設 日本救急医学会　専門医指定施設　　日本呼吸器学会　認定施設 日本循環器学会　専門医認定研修施設　　日本消化器内視鏡学会　専門医制度認定指導施設 日本消化器病学会　認定施設　　日本神経学会　専門医制度認定準教育施設 日本糖尿病学会　認定教育施設　　日本内分泌学会　内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会　認定研修施設　など

多根総合病院

認定基準 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·多根病院常勤医師として、法人の規定に則り労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスおよびハラスメントに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。 ·女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室、当直室が整備されています。 ·隣接地（徒歩約 5 分）に院内保育所があり、事前手続きにより利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 15 名在籍しています。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に、臨床研修センターとプログラム管理委員会とで対応します。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器，循環器、代謝、呼吸器、血液、神経、膠原病、感染症、アレルギー、および救急で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほとんどの疾患群（少なくても定常的に 60 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検数を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 •倫理委員会および治験管理委員会を開催しています。

	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年学会発表をしています。
指導責任者	赤峰　瑛介（内科教育責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院のプログラムでは、急性期を中心に病病または病診連携を経て、回復期、さらには慢性期医療まで幅広く経験を積むことができます。地域基幹病院での研修を通し地域包括ケアシステムの概念と現状を学び、当院のスローガンである全人的医療、シームレスな医療を実践できる内科専門医を育成します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名　　日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器病専門医 10 名　　日本消化器内視鏡学会専門医 11 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名　　日本神経学会神経内科専門医 8 名 日本臨床腫瘍学会専門医 1 名　　日本感染症学会専門医 1 名 日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医 1 名 日本超音波医学会専門医 1 名　　日本肝臓学会専門医 4 名 日本内分泌学会専門医 1 名　　日本糖尿病学会専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名　　日本大腸肛門病学会専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 9,952 名（延べ数 1 ヶ月平均）　入院患者 819 名（実数 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例の殆どを幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	中小規模病院として、急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本がん治療認定医機構認定研修施設　　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内科学会認定教育関連病院　　日本消化器病学会認定施設 日本栄養療法推進協議会　NST 稼動施設　　日本栄養治療学会　NST 稼動施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電図学会認定不整脈専門医研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度による研修教育病院　　日本神経学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設　　日本大腸肛門病学会認定施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度関連施設　　日本消化管学会胃腸科指導施設 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設　　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本胆道学会指導施設　　日本膵臓学会認定指導施設

森之宮病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・　研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・　労務環境が保障されています。 ・　メンタルストレスに適切に対処する相談窓口があります。 ・　ハラスメント委員会が法人本部に整備されています。

	・　女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，(仮眠室)，シャワー室，当直室が整備されています。 ・　病院近傍に関連施設の保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・　指導医は 11 名在籍しています。 ・　内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・　医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・　研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・　CPC を症例がある毎に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，神経，消化器，循環器，呼吸器，内分泌・代謝、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	宮井　一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 森之宮病院は大阪市城東区にあり、355 床を有する地域に根ざす第一線の病院であり、地域の医療、保健、福祉を担っております。基幹病院の内科研修プログラムの連携施設として、通常よくみられる疾患の経験は勿論、連携の中核として、病病連携・病診連携も経験できます。 救急にも力を入れており、二次救急の対応についても充分に経験できます。　また、療法士 150 人以上、社会福祉士 15 人を配置しており、内科専門医として必要なチーム医療や在宅復帰支援のための医療介護制度を理解し、「全身を診る医療」「医療と介護の連携」についても学ぶ研修にもなります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名　　日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本内科学会認定医 18 名　　日本神経学会指導医 7 名 日本神経学会専門医 8 名　　日本消化器内視鏡学会指導医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名　　日本消化器病学会指導医 1 名 日本消化器病学会専門医 2 名　　日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本心血管インターベンション治療学会専門医 3 名 救急医学会救急科専門医 1 名　　日本脳卒中学会指導医 4 名 日本脳卒中学会専門医 5 名　　日本糖尿病学会指導医 2 名 日本糖尿病学会専門医 2 名　　日本内分泌学会　内分泌代謝科指導医 1 名 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者　　年間　53,285 名（1 ヶ月平均　4,440 名） 新入院患者　年間　3,945 名（1 ヶ月平均　329 名）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，総合内科、神経内科，消化器内科，循環器内科，呼吸器内科，内分泌・代謝の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門医制度研修連携病院　　日本神経学会専門医制度教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設　　日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設　日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設

大阪大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ･非常勤医員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する施設（キャンパスライフ健康支援・相談センター）が、大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）にあります。 ･ハランスメント対策委員会が院内総務課に設置されています。また、ハラスメント相談室が大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）に設定されており、病院職員の一人が相談員として従事しており、院内職員も利用可能です。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･病院と同敷地内に大阪大学学内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 82 名在籍しています(2025 年度)。 ・プログラム管理委員会および研修委員会を設置しています。 ・プログラム管理委員会は、基幹施設および連携施設の研修委員会と連携をはかり、専攻医の研修を管理します。 ･医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC（内科系） を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査に対して、研修委員会が真摯に対応します。
認定基準 【整備基準 23】	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できる症例を診療していま

3) 診療経験の環境	す。専門研修に必要な剖検を適切に行います。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	･臨床研究が定常的に行われており、臨床研究のための講習会も定期的に開催されています。 ・大阪大学臨床研究倫理委員会（認定番号 CRB5180007）、介入研究等・観察研究等倫理審査委員会が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	プログラム統括責任者　山本浩一　副プログラム統括責任者　保仙直毅 研修委員会委員長　山本浩一
指導医数（常勤）	(2025 年度) 日本内科学会指導医 82 名 総合内科専門医 145 名 内科学会指導医のうち、以下の専門医が定常的に在籍しています。 日本消化器病学会消化器専門医、日本肝臓病学会専門医 日本循環器学会循環器専門医、日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学会専門医、日本腎臓病学会専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医 日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会専門医（内科） 日本リウマチ学会専門医、日本老年医学会老年科専門医、日本感染症学会専門医 JMECC ディレクター　0 名、JMECC インストラクター　8 名
外来・入院 患者数 （内科系）	2025 年度実績　外来患者延べ数　196,432 名、退院患者数　6,680 名 （病院許可病床数　一般　1034 床、精神　52 床） 2025 年度　入院患者延べ数　99,135 名（循環器内科　17,237 名、腎臓内科　6,325 名、消化器内科　18,867 名、糖尿病・内分泌・代謝内科　6,285 名、呼吸器内科　11,910 名、免疫内科　8,239 名、血液・腫瘍内科　13,614 名、老年・高血圧内科　4,440 名、脳神経内科　11,277 名、感染症内科　941 名）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある内科 11 領域、50 疾患群の症例を経験することができます。 このほか、ICU と連携して ICU のローテーション研修を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、豊能医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育施設　日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設　日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設　日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設　日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会研修施設　日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設　日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会研修施設　日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設　日本リウマチ学会教育施設 日本老年医学会認定教育施設　日本高血圧学会専門医認定施設

	日本感染症学会認定研修施設

国立病院機構大阪南医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･国立病院機構期間職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が管理課に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、 シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プロ グラムの環境	指導医は 21 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理室を設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 16 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（内科学習集談会、内科系診療科分野別地域合同カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（年 4 回、連携施設の大阪労災病院、りんくう総合医療センターで合同開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理室が対応します。 ･特別連携施設（樫本病院、寺元記念病院）の専門研修では、電話や週 1 回の大阪南医療センターでの面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の 環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2023 年度 6 体　2024 年度 7 体　2025 年度　3 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の 環境	臨床研究に必要な図書室、研究室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度 4 回）しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度 11 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	大島　至郎 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪南医療センターは、大阪府南河内医療圏の中心的な急性期病院であり、南河内医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3 名　日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器病専門医 2 名　日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2 名 日本消化管学会胃腸科専門医 1 名　日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本喘息学会喘息専門医 1 名　日本不整脈心電学会不整脈専門医 1 名 日本脳卒中学会脳卒中専門医 2 名　日本内分泌学会専門医 1 名 日本超音波医学会超音波専門医 1 名　日本神経学会神経内科専門医 1 名 日本集中治療専門医学会集中治療専門医 1 名 日本核医学会核医学専門医 1 名　日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名
外来・入院 患者数	外来延患者数 102,507 名 （ 8,542 名/月） 新入院延患者　 4,770 名 （ 397.5 名/月）　※2025 年度実績
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会専門医制度認定施設　日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本胆道学会認定指導医制度認定施設　日本肝臓学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設　日本循環器学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本腎臓学会研修施設　日本透析医学会教育関連施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設　日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設　日本血液学会認定血液研修施設証 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設証 日本神経学会専門医制度認定教育施設　日本高血圧学会専門医認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

国立病院機構 大阪刀根山医療センター

認定基準 [整備基準 24] 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（窓口：管理課）があります。 ･ハラスメントに適切に対処する部署（窓口：管理課）があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です（定期利用のみ）。

認定基準 [整備基準 24] 2)専門研修プログラムの環境	指導医は 14 名在籍しています（2026 年 4 月現在） ･内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 2 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（呼吸器　脳神経)。 専門研修に必要な剖検（2025 年度 6 体）を行っています。
認定基準 [整備基準 24] 4）学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 2 演題）をしています。
指導責任者	井上　貴美子　（内科学会指導医/総合内科専門医） 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構大阪刀根山医療センターは、豊中市にある呼吸器疾患と神経疾患の専門病院であり、両領域の基幹施設です。基幹施設と連携して内科専門研修を行います。専攻医の研修目的に合わせたプログラムで、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 13 名、 日本神経学会神経内科専門医 16 名
外来。入院 患者数 （内科系）	外来患者　53,697 名（平均延数　4,475 名／月） 新入院患者　2,928　名（平均数　244／月）(2025 年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 2 領域、15 疾患群の症例を経験することができます。(詳細はお問い合わせください)
経験できる技術。技能	技術。技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術。技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療。診療連携	急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、慢性疾患の診療を通して病診。病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　　日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設　　日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設　　日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設　　など

国立病院機構 近畿中央呼吸器センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度連携型研修指定病院です。 ・ 研修に必要なインターネット環境（電子ジャーナル閲覧可）があります。 ・ 非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医、管理課労務担当）があります。 ・ ハラスメント防止に関する規程が整備されており、相談窓口があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 11 名在籍しています（下記）. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，呼吸器および感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 2 回）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2025 年度実績 1 演題）をしています. ・臨床研究審査委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 9 回）しています. ・治験管理室を設置し，定期的に治験受託研究審査委員会を開催（2025 年度実績 11 回）しています. ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています.
指導責任者	蓑毛　祥次郎 【内科専攻医へのメッセージ】 ・　近畿中央呼吸器センターは、全国でも屈指の呼吸器専門病院です。基幹施設と連携して内科専門研修を行います。主に呼吸器疾患の診断、治療を含めた全人医療のできる内科専門医の育成を目指します。我々と一緒に学びませんか？熱意と協調性のある方、大歓迎です。
指導医数 （常勤医）	日本呼吸器学会呼吸器指導医　11 人　呼吸器学会呼吸器専門医 19 人 日本感染症学会感染症指導医　2 人　日本感染症学会感染症専門医 2 人 日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医 3 人 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 人　がん治療認定機構がん治療指導医　1 人 がん治療認定医機構がん治療認定医 6 人　日本アレルギー学会専門医 3 人 日本呼吸器内視鏡学会指導医 3 人　日本呼吸器内視鏡学会専門医 10 人 日本内科学会総合内科指導医 11 人　日本内科学会総合内科専門医 21 人 日本緩和医療学会緩和医療専門医　2 人 日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医 2 人 日本サイコオンコロジー学会認定登録精神腫瘍医 2 人 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医・指導医 1 人
外来・入院患者数	外来患者 4,027 名（平均延数／月）　入院患者 390 名（平均数／月）（2025 年度実績）
経験できる疾患群	1）研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，呼吸器疾患、感染症の内科治療を経験でき，付随するオンコロジーエマージェンシー，緩和ケア治療，終末期医療等についても経験できます. 2）研修手帳の一部の疾患を除き，多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について，幅広く経験することが可能です.
経験できる	1）日本屈指の呼吸器専門病院において，呼吸器疾患の診断，抗がん剤治療（標準治療，臨床試験・治験），緩和ケア治療，放射線治療，内視鏡検査・治療，など，幅広い呼吸器診療を経

技術・技能	験できます. 2）技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域 医療・診療連携	在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連特殊施設　日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会認定研修施設　日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本病理学会研修認定施設　日本臨床細胞学会認定施設　など

大手前病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･非常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，当直室が整備されています. ･保育所利用制度があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	･指導医が 11 名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．また，CPC を補完する内科系死亡症例検討会を月 1 回実施しています. ･地域参加型のカンファレンス（症例検討会など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，神経，循環器，代謝・内分泌，呼吸器，血液，腎臓，救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･専門研修に必要な剖検を毎年行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています．他の内科系学会での発表も，積極的に推奨しています. ･専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています. ･倫理審査委員会を設置し，定期的に開催しています. ･治験事務局を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています.
指導責任者	杉浦 寿央 【内科専攻医へのメッセージ】 大手前病院は，大阪市東部医療圏の中心的な急性期病院の 1 つで，大阪府指定の地域医療支援病院でもあり、大阪市東部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必

	要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します．内科系の多くのサブスペシャルティを持った病院であり,各分野の専門医がおり多彩な疾患を経験できます. 大阪府がん診療拠点病院であり，がんの診断，抗がん剤治療（標準治療，臨床試験・治験），放射線治療，内視鏡検査・治療から緩和ケア治療までを経験できます．また，救急病院で二次救急の救急搬送を年間約 4,937 件（うち内科系症例 3,672 件）（2025 年度）受け入れており，救急の研修も十分に行えます. 主治医・担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 17 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本肝臓学会専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本糖尿病学会専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 1 名，日本腎臓学会専門医 3 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本神経学会専門医 3 名，日本呼吸器学会専門医 1 名，ほか
外来・入院 患者数	内科系外来患者実数 55,518 人/年，内科系入院患者数 4,255 人/年（2025 年度）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，多くの内科領域において内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	1)急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます. 2)技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます .
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定内科専門医教育病院,日本肝臓学会認定施設,日本血液学会専門医制度研修施設,日本呼吸器学会認定施設,日本呼吸器内視鏡学会認定施設,日本消化器内視鏡学会認定指導施設,日本消化器病学会専門医制度認定施設,日本大腸肛門病学会関連施設,日本超音波医学会超音波専門医研修施設,日本乳癌学会関連施設,日本臨床腫瘍学会認定研修施設,日本がん治療認定医機構認定研修施設,日本病理学会研修認定施設，日本循環器学会認定循環器専門医研修施設,日本臨床細胞学会認定施設,日本脳卒中学会教育施設,日本糖尿病学会認定教育施設,日本神経学会専門医制度準教育施設,日本感染症学会感染症専門医制度認定研修施設,日本腎臓学会認定研修施設,日本透析医学会認定施設など

JCHO 大阪病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	□ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 □ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 □ 地域医療機能推進機構大阪病院専攻医として労務環境が保障されています。 □ メンタルストレスについては、産業医、心理療法士及び総務企画課長が適切に対処します。

	□ ハラスメントについては、総務企画課長が対処します。 □ 女性専攻医でも安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 □ 敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	□ 指導医は 17 名在籍しています。 □ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 □ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 □ 専攻医に医療安全セミナーを年 2 回以上、感染対策セミナーを年 2 回以上の受講を義務づけます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 □ CPC を原則毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 □ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 □ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 □ 日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	□ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 6 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 □ 70 疾患群のうち 56 疾患群について研修できます。 □ 専門研修に必要な剖検（年平均 10 体以上）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	□ 臨床研究に必要な図書室を整備しています。 □ 倫理委員会（年 4 回）と治験審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は治験審査委員会が担当し、受託研究審査委員会（適宜開催）で審査しています。 □ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。
指導責任者	金子 晃 【内科専攻医へのメッセージ】 地域医療機能推進機構大阪病院は、大阪府 2 次医療圏である大阪市西部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるように研修を行い、総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3 年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 17 名 日本内科学会認定医 10 名 日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本循環器学会専門医 4 名 日本消化器病学会専門医 5 名 日本肝臓学会専門医 5 名 日本呼吸器学会専門医 4 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会専門医 4 名 日本神経学会専門医 4 名 日本感染症学会専門医 1 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名 日本心血管インターベンション学会専門医 1 名 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 4 名

	日本透析医学会専門医 3 名　アレルギー学会認定専門医(内科) 1 名 日本呼吸器内視鏡学会専門医 2 名　日本超音波学会認定超音波専門医 3 名 日本消化管学会認定医 1 名　　日本ヘリコバクター学会認定ピロリ菌感染症認定医 3 名 日本不整脈学会認定専門医 1 名　　日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医 5 名 日本脳神経血管内治療学会専門医 1 名
外来・入院 患者数（内科）	外来患者 年間 82,090 名（1 ヶ月平均 6,840 人） 入院患者 年間 63,558 名（1 ヶ月平均 5,296 人） 2024 年度実績
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	総合病院における急性期医療だけでなく、地域に根ざした中核病院における医療、病診・病病連携なども経験できます。また全国規模の地域医療機能推進機構のスケールメリットを生かした、僻地医療も経験もできます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本呼吸器内視鏡学会診療施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修基幹施設 日本神経学会専門医教育施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

りんくう総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・りんくう総合医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）を設置しています。 ・「地方独立行政法人りんくう総合医療センターハラスメント防止要綱」に基づきハラスメント通報・相談窓口が設置されており、法人運営本部内部統制課が担当しています。同要綱に基づき、ハラスメント防止委員会が所要の措置を講じています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接する研修棟の敷地内に院内保育所あり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 12 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策研修会を定期的に開催（2025 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時

	間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（りんくうカンファレンス、クリニカルレベルアップセミナー、泉州地域医療フォーラム、りんくう循環器ネットワーク研究会、りんくう糖尿病病診連携の会、泉州 COPD フォーラム、泉州消化器フォーラム、南泉州神経フォーラムなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に教育研修委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24/ 31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 11 分野以上）で専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験事務局を設置し、定期的に治験委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会にて学会発表を行っています。
指導責任者	倭正也 【内科専攻医へのメッセージ】 りんくう総合医療センターは、大阪府泉州医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏および近隣医療圏にある連携施設での内科専門研修を経て、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、さらに、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもった内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名、 日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本不整脈心電学会専門医 1 名、 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)専門医 1 名、 日本消化器病学会認定専門医 5 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 5 名、 日本肝臓学会認定肝臓専門医 4 名、 日本腎臓病学会専門医 4 名、日本透析医学会専門医 3 名、 日本高血圧学会専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本造血・免疫細胞療法学会認定医 1 名、 日本輸血細胞治療学会認定管理師 1 名、 日本感染症学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、

	日本呼吸器学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医 1 名、日本神経学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名、 日本集中治療医学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本甲状腺学会専門医 1 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名 JMECC ディレクター1 名　ほか
外来・入院患者数 (内科系)	外来患者　6,437　名（平均延数／月） 新入院患者　3,564　名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	内科専門研修プログラム基幹施設　　日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設　　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本動脈硬化学会専門医制度認定教育施設　　日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本 IVR 学会 IVR 専門医修練認定施設　　日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設　　日本糖尿病学会認定教育施設 I 認定施設 日本リウマチ学会教育施設　　日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本感染症学会認定研修施設　　日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設・指導医指定施設 日本臨床細胞学会認定施設　　など

市立池田病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・医師臨床研修制度基幹型臨床研修病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境、Ｗｉ-Ｆｉ環境があります. ・池田市非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士担当）があります. ・ハラスメント委員会が池田市役所に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・ 敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	日本内科学会指導医は 23 名在籍しています。（2026 年 4 月現在） ･内科専門研修プログラム管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績計 6 回）し、専攻医に

	受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 6 回、2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（病病・病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 15 領域のうち 12 領域（アレルギー、膠原病、感染症を除く）では定常的に、アレルギー、膠原病、感染症領域も非常勤医と連携して専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表（2021 年度実績 7 演題、2022 年度実績 11 演題）をしています.
指導責任者	石田　永(1 名) 【内科専攻医へのメッセージ】 市立池田病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，同じ医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，Generality と Subspeciality とのどちらも追及できる可塑性があって，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します.
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名,日本消化器病学会消化器専門医 9 名，日本肝臓学会肝臓専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本内分泌学会内分泌専門医 3 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名，日本腎臓学会腎臓専門医 3 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名，日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名ほか
外来・入院 患者数(内科系)	外来延患者数　343 人/日　新入院患者数 410 人/月　（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 15 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	地域医療支援病院 厚生労働省臨床研修指定病院（医科・歯科） 大阪府がん診療拠点病院 日本医療機能評価機構認定病院（3rdG：Ver.2.0） 卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定病院 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本炎症性腸疾患学会指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本膵臓学会認定指導医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会研修認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設

	日本内分泌学会認定教育施設　　日本甲状腺学会認定専門医施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設　　日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設　　日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本臨床神経生理学会認定施設　　日本認知症学会教育施設 日本臨床細胞学会施設　　日本アレルギー学会認定準教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　　日本緩和医療学会認定研修施設 日本栄養治療学会 NST（栄養サポートチーム）稼動施設

箕面市立病院

認定基準 [整備基準 24] 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･常勤職員として労務環境が保障されています。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2)専門研修プログラムの環境	指導医は 9 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置し､施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設及び連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理、医療安全、感染対策講習会等を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回［当院 1 回、他院 4 回］）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（箕面市病診連携懇談会、研修会、箕面市立病院登録医意見会研修会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3）診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 12 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記)。 ･専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 2 体、2024 年度実績 0 体、2023 年度実績 2 体、2022 年度実績 2 体、2021 年度実績 3 体、2020 年度実績 6 体、2019 年度実績 12 体、2018 年度実績 12 体、2017 年度実績 8 体）を行っています。
認定基準 [整備基準 24] 4）学術活動の環境	･倫理委員会を設置し、定期的に開催しています（2025 年度実績 4 回)。 ･治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	森谷　真之 【内科専攻医へのメッセージ】 箕面市立病院は、豊能医療圏の中心的な急性期病院のひとつであり、大阪大学医学部附属病院

	および、豊能医療圏および阪神地域の医療圏の病院などと連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、日本消化器病学会消化器病専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 3 名、日本肥満学会肥満症専門医 1 名、日本専門医機構認定内科専門医 4 名
外来、入院患者数 （内科系）	外来延患者数 40,061 名/年（2025 年度） 入院延患者数名 34,015/年（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術、技能	技術、技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術、技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　　日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設　　日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会血液研修施設　　日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本肝臓学会認定施設　　日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設　　日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働認定施設　など

大阪急性期・総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・ 非常勤医員として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する施設（大阪府こころの健康総合センター)が、病院と公園をはさんで隣にあります。 ・ ハランスメント対策講習会が院内で毎年開催されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 病院と同敷地内に保育所があり、病児保育も含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	･JMECC 開催要件であるディレクターが在籍しており、毎年数回講習会を開ける体制にあります。 ･指導医は 2026 年 4 月の時点で 31 名在籍しています。 ･専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催（2025 年度実績 医療安全 12 回、感染対策 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績：7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型カンファレンスを各診療科にて年 2 回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診

3) 診療経験の 環境	療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の 環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2025 年度実績 9 演題)をしています。
指導責任者	大阪急性期・総合医療センター内科専門研修プログラム責任者　林　晃正
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 31 名、日本内科学会総合内科専門医 32 名
外来・入院 患者数	2025 年実績：外来患者 1,167 名（平均/日)、　入院患者 20,666 名/年
経験できる 疾患群	専攻医登録評価システム（J-OSLER)にある内科 13 領域、70 疾患群のほとんどすべての症例を定常的に経験することができます。当センターは高度救命救急センター、三次救急及び二次救急の指定医療機関であることを踏まえ、南大阪地域の救命救急の中核的医療機関として、24 時間体制で患者さんを受け入れています。従って、救命救急センターと連携して救急領域の不足疾患を経験することが可能です。また、障害者医療・リハビリテーションセンターを有して、医療と福祉の連携といった観点に立った活動も行っているため、急性期から慢性期まで幅広い疾患群を経験できます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、大阪府南部医療圏における地域医療、病診・病々連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院　日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設　日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設　日本不整脈学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設　日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本腎臓学会研修施設　日本透析医学会認定医認定施設 日本高血圧学会専門医制度認定施設　日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会専門医教育施設　日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医教育施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設　日本内科学会専門医制度研修施設 日本感染症学会研修認定施設　日本脳卒中学会認定研修教育病院 心血管インターベンション学会研修施設　植え込み型除細動器移植・交換術認定施設 両室ペースメーカー移植術認定施設　日本胆道学会指導施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設 日本甲状腺学会認定専門医施設　日本緩和医療学会認定研修施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設　日本血液学会研修教育施設 日本脳神経血管内治療学会研修施

市立東大阪医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･市立東大阪医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメント相談窓口が設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整

	備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、病児保育も含めて利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 16 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績はそれぞれ 1 回・2 回・2 回、 Web 開催を含む）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC については、過年度 COVID-19 の影響により、開催に制限を受けていましたが、2023 年度 3 回、2024 年度 4 回、2025 年度 6 回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ･地域参加型のカンファレンス（市立東大阪医療センタースクラム会、東大阪市循環器研究会、東大阪市神経筋難病地域ケア研究会、東大阪生活習慣病研究会、東大阪市消化器病症例検討会、東大阪市腎臓病カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、血液、神経、膠原病、感染症、救急の 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 3 演題）をしており、その他関連学会での学会発表もしています。
指導責任者	プログラム統括責任者　鷹野　譲 【内科専攻医へのメッセージ】 　市立東大阪医療センターは、大阪府中河内医療圏に 2 病院しかない内科学会教育病院の 1 つで、当地区の中心的な急性期病院であり、中河内医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。また、2017 年 4 月より 3 次救命救急センターである、隣接府立中河内救命救急センターの指定管理も受託しており、当センターとの一体化した運用により、高度の救急疾患も経験できます。さらに、2019 年度には ICU、手術室の大幅な拡張工事を行い、心臓血管外科の手術も開始し、アブレーションなど循環器内科の症例も飛躍的に増加する一方、脳外科と神経内科で脳卒中当直（SCU）も開始し、さらに優れた急性期医療を経験できるようになりました。 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名

	日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 6 名 日本神経学会専門医 4 名、日本リウマチ学会専門医 2 名 日本肝臓学会指導医 3 名、日本老年病学会専門医 1 名 日本血液学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 7 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 70,442 名/年、 新患 7,564 名/年 入院患者 56,773 名/年、新入院 4,857 名/年（実数）2025 年度内科系実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設　日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本腎臓学会研修施設　日本透析医学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設　日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院　日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設　日本内分泌学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設　日本病院総合診療医学会認定施設　など

市立伊丹病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･伊丹市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課人事研修担当）があります。 ･ハラスメント窓口（総務課人事研修担当）が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	･指導医は 33 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）（内科指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ･医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 5 回，2020 年度実績 9 回，2021 年度実績 9 回、2022 年度実績 5 回、2023 年度 9 回実績、2024 年度 8 回実績）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2019 年度実績 12 回，2020 年度実績 9 回，2021 年度実績 8 回、2022 年度実績 8 回、2023 年度実績 12 回、2024 年度実績 10 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。

	·地域参加型のカンファレンス（伊丹市医師会内科医会循環器フォーラム，伊丹市医師会内科医会糖尿病フォーラム，伊丹市医師会内科医会呼吸器疾患フォーラム，伊丹市医師会消化器勉強会。外科医会合同講演会，伊丹市医師会内科医会講演会，登竜門カンファレンス，神戸 GM カンファレンスなど）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年 9 月に第 1 回を開催，2017 年 5 月に第 2 回，2018 年 5 月に第 3 回を開催，2019 年 5 月に第 4 回を開催，2022 年 10 月に第 5 回を開催、2023 年 6 月に第 6 回を開催、2024 年 10 月に第 7 回を開催）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の 環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 58 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 10 体，2019 年度 13 体、2020 年度 8 体，2021 年度 9 体、2022 年度 12 体、2023 年度 6 体、2024 年度 9 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の 環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2019 年度実績 9 回，2020 年度実績 3 回，2021 年度実績 9 回、2022 年度実績 7 回、2023 年度実績 8 回、2024 年度実績 7 回）しています。 ·治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2019 年度実績 11 回，2020 年度実績 8 回，2021 年度実績 8 回、2022 年度実績 11 回、2023 年度実績 11 回、2024 年度実績 11 回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 3 演題，2020 年度実績 3 演題，2021 年度実績 5 演題、2022 年度実績 3 演題、2023 年度実績 7 演題. 2024 年度実績 3 演題）をしています。 ·学会等への参加は出張扱いとし、出張費を支給しています。（当院規定による）
指導責任者	村山洋子 【内科専攻医へのメッセージ】 市立伊丹病院は，兵庫県阪神北医療圏の中心的な急性期病院であり，阪神北医療圏、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として，入院から退院〈初診。入院～退院。通院〉まで経時的に，診断。治療の流れを通じて，社会的背景。療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざしていただきます。
指導医数 （常勤）	日本内科学会指導医 33 名，日本内科学会総合内科専門医 22 名， 日本消化器病学会消化器指導医 4 名,日本消化器病学会消化器専門医 7 名， 日本消化器内視鏡学会指導医 4 名，日本消化器内視鏡学会専門医 8 名， 日本肝臓学会指導医 1 名，日本肝臓学会専門医 4 名， 日本循環器学会循環器専門医 6 名， 日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名,日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名， 日本血液学会血液指導医 3 名,日本血液学会血液専門医 4 名， 日本糖尿病学会指導医 1 名,日本糖尿病学会専門医 4 名， 日本アレルギー学会指導医（内科）1 名，日本リウマチ学会指導医 1 名， 日本老年医学会指導医 2 名，日本認知症学会指導医 2 名 日本高血圧学会指導医 1 名，日本腎臓病学会専門医 1 名 日本臨床腫瘍学会指導医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 17624 名（1 ヶ月平均）　新入院患者 904 名（1 ヶ月平均）
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診。病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　臨床研修病院（基幹型） 日本消化器病学会専門医制度認定施設　日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設　日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定施設　日本循環器学会専門医制度研修施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設　日本血液学会認定血液研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本糖尿病学会認定教育施設　日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設　日本老年医学会専門研修施設 日本認知症学会専門医教育施設　日本高血圧学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本臨床腫瘍学会専門医制度研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設　日本超音波医学会専門医研修施設 日本人間ドック学会専門医制度研修関連施設日本老年医学会認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設　など

関西労災病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·関西労災病院常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ·ハラスメント防止対策委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·病院近傍に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	·指導医は 21 名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します. ·医療倫理（2025 年度実績 1 回）・医療安全（2025 年度実績 2 回）・感染対策講習会（2025 年度実績 4 回）を開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（感染対策地域連携カンファレンス； 2025 年度実績 4 回，阪神がんカンファレンス； 2025 年度実績　乳がん 1 回、婦人科がん 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 67 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 7 体、2024 年度実績 6 体、2023 年度実績 7 体、2022 年度実績 10 体、2021 年度実績 12 体、2020 年度実績 10 体、2019 年度実績 10 体，2018 年

	度実績 12 体，2017 年度実績 13 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の 環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 10 回）しています. ･治験事務局を設置し，月 1 回臨床治験倫理審査委員会を開催（2025 年度実績 10 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 2 演題）をしています.
指導責任者	和泉　雅章 【内科専攻医へのメッセージ】 関西労災病院は，兵庫県阪神南医療圏の中心的な急性期病院であり，阪神北医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4 名，日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会消化器指導医 10 名， 日本消化器病学会消化器専門医 18 名， 日本循環器学会循環器専門医 6 名， 日本糖尿病学会指導医 1 名，日本糖尿病学会専門医 2 名， 日本腎臓学会指導医 3 名，日本腎臓学会専門医 5 名， 日本透析医学会指導医 2 名，日本透析医学会専門医 2 名， 日本消化器内視鏡学会指導医 5 名，日本消化器内視鏡学会専門医 13 名， 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 2 名， 日本臨床腫瘍学会指導医 2 名，日本臨床腫瘍学会専門医 3 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 24,033 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,481 名（1 ヶ月平均）
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設　日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設　日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設　など

兵庫県立西宮総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室と最新の生成 AI・Wi-Fi インターネット環境があります. ·地方公務員法第 22 条の 2 第 1 項第 2 号の規定に基づく会計年度任用職員として正規職員に準じた労務環境が保障されています．また公舎等の利用が可能です. ·当センターに常勤の臨床心理士が職員のメンタルヘルス相談を随時行っています．そしてメンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）が兵庫県庁にあります．希望者には毎年メンタルヘルスに関する健診を行っています。 ·院内にハラスメント委員会を設置しました. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，18 時まで保育時間を延長する延長保育を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 52 名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 2 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，ZOOM 配信により専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス（2026 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2020 年度実績 2 回・2 体分，2021 年度実施 5 体，2022 年度実施 5 体，2023 年度実施 1 体，2024 年度実施 3 体，2025 年度実施 0 体）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 69 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，血液，神経，アレルギー，膠原病，呼吸器，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 2 体，2021 年度 5 体，2022 年度実施 5 体，2023 年度実施 1 体，2024 年度実施 3 体，2025 年度実施 0 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 9 演題、2024 年度実績 4 演題、2025 年度実績 8 演題）をしています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 10 回）しています. ・治験センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 12 回）しています. ・臨床研究センターを設置しています. ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭演者としての執筆が定期的に行われています. ・臨床研修センター（前期・後期）を設置しています.
指導責任者	楢原　啓之（ならはら　ひろゆき） 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立西宮総合医療センター（2026 年 7 月兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院が合併移転）は、人口が増加している兵庫県西宮市の一等地（阪急電車今津線阪神国道駅から徒歩 1 分にあります．兵庫県立病院の中で最も歴史が古く、診療科間の垣根が低いチーム医療・トータルケア（全人的医療）を実践しています．兵庫県内および大阪府内の連携施設や大阪大学医学部付属病院・兵庫医科大学・関西医科大学・大阪医科薬科大学と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています. ・本プログラムは，初期臨床研修修了後に院内の内科系診療科のみならず連携施設と連携して，質の高い内科専門医を育成するものです．医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，さらに医学の進歩に貢献して国内のニーズへの貢献を担える医師を育成することを目的とするものです.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 52 名，日本内科学会総合内科専門医 29 名・内科専門医 4 名，日本消化器病学会消化器病専門医 14 名，日本消化器内視鏡学会専門医 12 名，日本肝臓学会肝臓専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本腎臓学会腎臓専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 6 名，日本呼吸器学会専門医 4 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 4 名，日本神経学会認定神経内科専門医 3 名日本アレルギー学会専門医 2 名，日本血液学会認定血液専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数	兵庫県立西宮病院：外来患者 12,312 名（1 ヶ月平均）　入院患者 9,695 名（1 ヶ月平均延数） 兵庫県立西宮病院：外来患者 55,297 名/年　入院患者 48,857 名/年 西宮市立中央病院：外来患者 26,001 名/年　入院患者 20,440 名/年
経験できる 疾患群	軟部肉腫等のきわめて稀な疾患を含めて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．毎年 JMECC 講習会を主催します．特に緊急心臓カテーテル検査・PCI，化学療法・肝がん経皮的治療・内視鏡治療においてはより高度な専門技術を習得することができます.
経験できる地域 医療・診療連携	救命救急センターと緊密に連携してドクターカー・DMAT カーを含めて超急性期症例を経験できます．2026 年 7 月には屋上にヘリポートを設置してドクターヘリを運用します．また急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設 日本禁煙学会認定教育施設 日本臨床腎移植学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会特別連携施設 日本血液学会血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本胆道学会認定指導施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会認定教育施設　　など

川崎病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･医療法人川崎病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･各種ハラスメント相談窓口が医療法人川崎病院に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 16 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（総合診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と内科専門医研修室を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 6 回　適宜 e-learning 実施）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.

	·CPC を定期的に開催（2025 年実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（院内学術集会，院内感染対策講習会，地域連携セミナー，兵庫区循環器研究会，兵庫区消化器連携セミナー，心不全カンファレンスなど(2025 年度実績 12 回)を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室、インターネット（Wi-fi）、統計ソフトウェアなどを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	飯田正人 【内科専攻医へのメッセージ】 医療法人川崎病院は、兵庫県神戸医療圏の中心的な急性期病院であり、神戸医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名　　日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名　　日本呼吸器学会専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名　　日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名　　日本透析医学会専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 1 名　　日本肝臓学会肝臓専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数	延べ外来患者 7,150 名(1 か月平均)　入院患者 6,712 名(1 か月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　　日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設　　日本消化管学会暫定指導施設

	日本カプセル内視鏡学会指導施設　　日本大腸肛門学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設　　日本血液学会認定医研修施設 日本透析医学会教育関連施設　　日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院　　日本動脈硬化学会専門医教育病院 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設　など

香川大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･香川大学医学部附属病院後期研修医（医員）として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（保健管理センター）があります. ･ハラスメント相談員が相談に対応します. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 51 名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 7 回，感染対策 4 回し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	南野　哲男 【内科専攻医へのメッセージ】

	香川大学医学部附属病院は香川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 51 名、日本内科学会総合内科専門医 38 名 日本消化器病学会消化器病専門医 22 名、日本肝臓学会専門医　6 名 日本循環器学会循環器専門医 15 名、日本内分泌学会専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 6 名 日本感染症学会専門医 4 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 5 名、 日本救急医学会救急科専門医 6 名　ほか
外来・入院患者数 2020 年度	年間延外来患者数 252,521 人（全科）、82,725 人（内科） 年間延入院患者数 179,864 人（全科）、57,499 人（内科）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　日本消化器病学会認定施設 日本内科学会認定教育施設　日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設　日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設　日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設　日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定施設　日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医認定施設　日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院　日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設　日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院　日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設　日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設　日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設　日本アフェレシス学会認定施設 日本老年精神医学会認定施設　日本病院総合診療医学会認定施設　など

市立豊中病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi 環境があります. ·豊中市非常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ·ハラスメント委員会が病院内に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 29 名在籍しています（2026 年 4 月 1 日現在）. ·内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修センターを設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（北大阪内科研究会、北摂血液疾患懇話会、北摂内視鏡研究会、大阪腎疾患研究会、大阪大学内分泌・代謝研究会、豊中糖尿病研究会、豊中胃内視鏡勉強会、はーと会など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ·専門研修に必要な剖検（2020 年度 6 体、2021 年度 9 体、2022 年度 8 体、2023 年度 7 体、2024 年度 8 体、2025 年度 4 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，臨床研究センターを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験審査委員会を設置し，定期的に治験審査委員会を開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています（2025 年度実績 8 演題）。
指導責任者	小杉　智（内科主任部長、血液内科主任部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 市立豊中病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，豊能医療圏・近隣医療圏

	にある連携施設で内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤内科医） 2024 年 4 月 1 日現在	日本内科学会指導医 28 名，日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本専門医機構認定（新）内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名，日本肝臓病学会専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本糖尿病学会専門医 3 名， 日本内分泌学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 4 名， 日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本アレルギー学会専門医 2 名、 日本臨床腫瘍学会専門医 2 名、日本内視鏡学会専門医 5 名
外来・入院患者数　（内科系）	外来延患者数　109,071 名/年（2025 年度） 入院件数　84,470 件/年（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設　日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定教育施設　日本神経学会専門医制度教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設　日本内分泌学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設　日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育施設　日本透析医学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設　日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設　日本がん治療認定医機構認定研修施設　など

市立吹田市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･医師（非常勤職員）として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（病院総務室職員、公認心理師）があります. ･ハラスメントに適切に対処するための部署（ハラスメント窓口担当）があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.

	·敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	·指導医は 24 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（病院長）（総合内科専門医かつ指導医)、プログラム管理者（内科部長）（総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（北大阪内科カンファレンス等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記)。 ·70 疾患群のうち膠原病をのぞく全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記)。 ·専門研修に必要な剖検（2023 年度 4 体、2024 年度 4 体、2025 年度 4 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（年 4 回）しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（月 1 回）しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	火伏俊之 【内科専攻医へのメッセージ】 市立吹田市民病院は，大阪県豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （内科系常勤医）	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本肝臓病学会専門医 7 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、

	日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名　　ほか
外来・入院患者数	延べ外来患者 16,534 名（1 か月平均）　新入院患者 871 名（1 か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定施設　日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設　日本呼吸器内視鏡学会専門医関連認定施設 日本血液学会認定血液研修施設　日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設　日本超音波学会認定超音波専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設　日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定機構認定研修施設　日本緩和医療学会認定研修施設 大阪府癌診療拠点病院指定書　臨床研修認定病院　など

日本生命病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本生命病院常勤医師としての労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床研修部及び総務人事グループ担当）があります。 ・ハラスメント相談窓口が設置されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 20 名在籍しています。（2026 年 4 月現在） ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医 JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 の疾患群のうちほとんどの疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・倫理委員会および治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	橋本　久仁彦 【内科専攻医へのメッセージ】 日本生命病院は、「済生利民」を基本理念とする日本生命済生会が昭和 6 年に設立しました。現在では 29 診療科・10 診療センター、病床数 350 を擁する大阪西部地域の基幹病院へと発展しており、予防から治療・在宅まで一貫した医療サービスの提供を実践しています。急性期医療だけでなく慢性期医療や地域医療にも貢献し、全人的医療を行うとともにリサーチマインドを持った内科専門医を育成します。
指導医数 （内科系常勤医）	日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 20 名、 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本消化器内視鏡学会専門医 7 名、 日本肝臓学会専門医 4 名、日本循環器学会専門医 5 名、 日本高血圧学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本内分泌学会専門医 3 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 2 名、 日本透析医学会専門医 1 名、日本老年学会老年病専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 384 名（一日平均）　入院患者 146 名（一日平均）(2025 年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　日本循環器学会専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設　日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器病学会認定施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設　日本膵臓学会認定指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設　日本超音波医学会専門医制度研修施設 日本胆道学会指導施設　日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設　日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設　日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会専門医準教育施設　日本血液学会専門研修認定施設

	日本神経学会専門医制度准教育施設　　日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定制度認定施設　　日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本造血細胞移植学会非血縁者間造血細胞移植認定施設（診療科） 日本認知症学会専門医制度教育施設　　（2026 年 4 月 1 日現在）

兵庫医科大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書やインターネット環境が整備されています。 ・ 専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。 ・ 心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理し、特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。 ・ 女性専攻医も安心して勤務できるように環境が整備されています。 ・ 隣接地の保育園に当院専用枠が 50 名分あり、事前手続きにより利用可能です。また、院内に病児保育室も整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 44 名在籍しています。 ・ 本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を兵庫医科大学病院に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催しています。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に、卒後臨床研修センターとプログラム管理委員会とで対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・ 兵庫医科大学病院には 10 の内科系診療科があり、内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて経験すべき全 70 疾患群を全て充足可能です。 ・ 専門研修に必要な剖検数を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理審査委員会、認定臨床研究審査委員会および治験管理委員会を開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年学会発表をしています。

指導責任者	木島　貴志 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫医科大学病院は、阪神地区における基幹病院であり、急性期疾患から起床疾患まで多岐にわたる疾患群の研修が可能です。大学病院という特性から、先進的医療が充実していますが、一方、地域医療の実践も重視しており、バランスの取れた内科研修を行うことが出来ます。また教育スタッフも豊富で、臨床のみならず、臨床研究も行っており、各位の希望に沿った研修が期待できます。
指導医数 （内科系常勤医）	日本内科学会指導医 58 名　日本内科学会総合内科専門医 59 名 血液専門医 8 名　日本リウマチ学会専門医 9 名 日本糖尿病学会認定専門医 11 名　日本内分泌学会専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 24 名　日本消化器内視鏡学会専門医 29 名 日本呼吸器学会専門医 9 名　日本神経学会専門医 4 名 日本腎臓学会認定専門医 9 名　日本透析医学会認定専門医 11 名 日本循環器学会専門医 18 名
外来・入院患者数	外来患者数：213,815（延人数）・入院患者数：104,879（延人数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の全てを経験することが出来ます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	当院は急性期病院であり、回復期病棟や地域包括ケア病棟、あるいは緩和ケア病棟を持つ連携病院と一体となって、退院後も継続して患者を経過観察できる体制となっています。
学会認定施設 （内科系）	日本アレルギー学会　日本がん治療認定医機構　日本リウマチ学会 日本肝臓学会　日本血液学会　日本呼吸器学会　日本呼吸器内視鏡学会 日本循環器学会　日本消化器内視鏡学会　日本消化器病学会 日本心血管インターベンション学会　日本緩和医療学会　日本静脈経腸栄養学会 日本動脈硬化学会　日本不整脈学会　日本神経学会　日本大腸肛門病学会 日本超音波医学会　日本糖尿病学会　日本透析医学会　日本頭痛学会 日本内科学会　日本内分泌学会　日本脳卒中学会　日本輸血・細胞治療学会 日本臨床細胞学会　日本臨床腫瘍学会　日本臨床神経生理学会 日本老年医学会　日本 IVR 学会　日本カプセル内視鏡学会　日本高血圧学会 日本消化管学会　日本胆道学会

川西市立総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（医事課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が川西市立総合医療センター内、医療法人協和会内に整備されています。

	·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ·提携している保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 ２）専門研修プログラムの環境	·指導医は 10 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長)、プログラム管理者（診療局長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（病院主催川西市地域医療連携勉強会、感染防止対策講習会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 ３）診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち全分野（少なくても８分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·７０疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても３５以上の疾患群）について研修できます。 ·専門研修に必要な剖検（2023～2025 年度平均 7.0 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 ４）学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会が設置されています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１講演以上に学会発表をしています。
指導責任者	厨子　慎一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 川西市立総合医療センターは 2022 年 9 月に新規開院した川西市内最大の急性期病院です。阪神北医療圏域の中核病院として広く川西市、猪名川町にわたる高齢者の多い地域の多彩な疾患が経験可能です。内科以外の診療科とも協力して積極的に診療にかかわり、生涯にわたって学習する姿勢を大事にする医師を育成します。
指導医数 （内科系常勤医）	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医 9 名,日本消化器病学会指導医 6 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名、日本消化器内視鏡学会指導医 4 名,日本消化管学会胃腸科専門医 5 名、日本消化管学会胃腸科指導医 5 名、日本炎症性腸炎疾患学会 IBD 専門医 1 名、日本炎症性腸炎疾患学会 IBD 指導医 1 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本肝臓学会指導医 1 名、日本循環器学会専門医 5 名,日本脈管学会専門医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名、日本禁煙学会専門医 1 名、日本禁煙

	学会指導医１名、日本呼吸器学会専門医１名、日本呼吸器内視鏡学会専門医１名、日本呼吸器内視鏡学会指導医１名、日本糖尿病学会指導医１名、日本糖尿病学会専門医２名，日本内分泌学会指導医１名、日本内分泌学会専門医２名、日本高血圧学会指導医１名、日本老年病学会専門医１名、日本超音波学会専門医１名、日本超音波学会指導医１名、日本腎臓学会専門医２名、日本透析医学科専門医２名
外来・入院患者数	外来患者 17,355 名　　入院患者数 12,971 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある１３領域、７０疾患群のうち８領域５０疾患群以上の症例を幅広く経験できることができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験できることができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本老年医学会認定施設、日本高血圧学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定教育施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本腹膜透析医学科認定施設、日本透析医学会教育関連施設、日本肺癌学会認定教育施設、日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設認定など

大阪労災病院

認定基準 【整備基準 23】 １）専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･独立行政法人労働者健康安全機構の非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 ２）専門研修プログラムの環境	･指導医は 16 名在籍しています（下記）。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長・臨床検査科部長）、プログラム管理者（特任院長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実 44 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（基幹施設：堺循環器懇話会、南大阪心疾患治療フォーラム、南大阪不整脈研究会、SAKAI CKD Community、堺腎疾患懇話会、堺糖腎会、堺和泉糖尿病懇話会、南大阪臨床栄養研究会、大阪南インスリン治療フォーラム、南大阪消化器病懇話会など； 2025 年度実績 42 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2025 年度 6 体、2024 年度実績 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています。 ·治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2025 年度実績 11 回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 19 演題）をしています。
指導責任者	山内　淳 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪労災病院は、大阪府南大阪医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （内科系常勤医）	日本内科学会指導医 16 名、日本消化器病学会消化器指導医 9 名、日本内分泌学会指導医 3 名、日本人間ドック学会指導医 1 名、日本糖尿病学会指導医 3 名、日本腎臓学会指導医 3 名、日本老年医学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 5 名、日本超音波医学会指導医 1 名、日本高血圧学会指導医 1 名、日本肝臓学会指導医 6 名、日本透析医学会指導医 3 名、日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名、日本神経学会神経内科指導医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 32,880 名（1 ヶ月平均）　入院患者 16,776 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。	
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院	日本老年医学会認定施設
	日本消化器病学会認定施設	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本腎臓学会研修施設	日本リウマチ学会教育施設
	日本透析医学会専門医制度認定施設	日本精神神経学会研修施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本糖尿病学会認定教育施設	日本高血圧学会専門医認定施設
	日本脳卒中学会研修教育病院	日本神経学会認定准教育施設　など

国立病院機構大阪医療センター内科専門研修プログラム管理委員会

（2026 年 4 月現在）

国立病院機構大阪医療センター

柴山浩彦（プログラム統括責任者、血液内科分野責任者、血液内科科長）
松村泰志（プログラム管理者、院長）
上平朝子（プログラム統括副責任者、臨床研究責任者、感染制御部長）
上田恭敬（研修委員長、統括診療部長）
井上耕一（循環器内科分野責任者、循環器内科科長）
渡邊　大（感染症内科分野責任者、感染症内科科長）
南　誠剛（呼吸器内科分野責任者、呼吸器内科科長）
阪森亮太郎（消化器内科分野責任者、消化器内科科長）
楠　康生（腎臓内科分野責任者、腎臓内科科長）
加藤　研（糖尿病・内分泌内科分野責任者、糖尿病・内分泌内科科長）
岡﨑周平（脳神経内科分野責任者、脳神経内科科長）
宮本　智（総合診療科分野責任者、総合診療科科長）

連携施設担当委員

大阪けいさつ病院	飯島英樹（副院長、消化器内科部長）
多根総合病院	赤峰瑛介（消化器内科副部長）
森之宮病院	宮井一郎（脳神経内科、副理事長・院長）
大阪大学医学部附属病院	藤本　拓（老年・高血圧内科、外来医長）
国立病院機構大阪南医療センター	大島至郎（臨床研究部長）
国立病院機構大阪刀根山医療センター	井上貴美子（脳神経内科部長）
国立病院機構近畿中央呼吸器センター	蓑毛祥次郎（教育研修部長）
大手前病院	杉浦寿央（診療部長）
JCHO 大阪病院	金子　晃（副院長）
りんくう総合医療センター	倭　正也（総合内科・感染症内科主任部長）
市立池田病院	石田　永（消化器内科主任部長）
箕面市立病院	中原征則（消化器内科副理事兼主任部長）
市立東大阪医療センター	鷹野　譲（副院長）
市立伊丹病院	村山洋子（診療部長）
関西労災病院	和泉雅章（副院長、内科部長）
兵庫県立西宮総合医療センター	楢原啓之（内科部長）
川崎病院	松田守弘（教育推進本部長、内科総括部長）
市立豊中病院	小杉　智（内科主任部長）
市立吹田市民病院	内藤雅文（病院長）
香川大学医学部附属病院	南野哲男（医師キャリア支援センター長）
日本生命病院	橋本久仁彦（副院長）

兵庫医科大学病院	木島貴志（呼吸器内科・主任教授）
川西市立総合医療センター	厨子慎一郎（副院長）
大阪労災病院	山内　淳（研修管理委員長）

オブザーバー

内科専攻医代表２名予定

別表　各年次到達目標

	内容	専攻医３年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医３年修了時 修了要件	専攻医２年修了時 経験目標	専攻医１年修了時 経験目標	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5 以上※1※2	5 以上※1		3※1
	循環器	10	5 以上※2	5 以上		3
	内分泌	4	2 以上※2	2 以上		3※4
	代謝	5	3 以上※2	3 以上		
	腎臓	7	4 以上※2	4 以上		2
	呼吸器	8	4 以上※2	4 以上		3
	血液	3	2 以上※2	2 以上		2
	神経	9	5 以上※2	5 以上		2
	アレルギー	2	1 以上※2	1 以上		1
	膠原病	2	1 以上※2	1 以上		1
	感染症	4	2 以上※2	2 以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計		70 疾患群	56 疾患群	56 疾患群	36 疾患群	29 症例 (外来は最大 7※3)
症例数		180 以上	120 以上 (外来は最大 12)	120 以上	60 以上	

※1　消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※2　修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする。

※3　外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4　「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
例)「内分泌」2 例+「代謝」1 例,「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5　初期臨床研修時の症例は、最大 60 例まで、その登録が認められる。